

2025年度

講義概要

学籍 番号		氏名	
----------	--	----	--

大阪健康福祉短期大学
地域総合介護福祉学科

2025年度 地域総合介護福祉学科 講義概要
目次

地域総合介護福祉学科 主要科目	1 - 3
-----------------	-------

	領域	授業科目の名称	ページ	開講 Semester
人間 と 社会	人間の尊厳と自立	人間論	4 - 5	3
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	6 - 7	1
		人間関係とコミュニケーションⅡ	8 - 9	2
	社会の理解	生活と社会福祉Ⅰ	10 - 11	1
		生活と社会福祉Ⅱ	12 - 13	2
		地域社会における福祉専門職の役割	14 - 15	3
	必須科目	日本の生活文化	16 - 17	1
		ソーシャルワーク論	2025年度未開講	3
		日本国憲法	18 - 19	2
	介護	介護の基本	介護の基本	20 - 21
介護対象者論Ⅰ			22 - 23	2
介護対象者論Ⅱ			24 - 25	3
尊厳と自立を支える介護			26 - 27	4
リハビリテーション論			28 - 29	3
家政学概論			30 - 30	4
コミュニケーション技術		介護現場におけるコミュニケーション技術	31 - 32	2
		視覚障がい者とのコミュニケーション	33 - 33	3
		聴覚障がい者とのコミュニケーション	34 - 35	3
生活支援技術		生活支援技術Ⅰ	36 - 37	1
		生活支援技術Ⅱ	38 - 39	2
		生活支援技術Ⅲ	40 - 41	3
		生活支援技術Ⅳ	42 - 43	4
		生活環境の整備	44 - 44	3
		栄養・調理の方法	45 - 46	3
介護過程		介護過程の基本	47 - 48	1
		介護過程の展開Ⅰ	49 - 50	2
		介護過程の展開Ⅱ	51 - 52	3
		介護過程の実践的展開	53 - 54	4
		ケアマネジメント論	55 - 56	4
介護総合演習		介護総合演習Ⅰ	57 - 58	1
		介護総合演習Ⅱ	59 - 60	2
		介護総合演習Ⅲ	61 - 62	3
		介護総合演習Ⅳ	63 - 64	4
		介護福祉研究法(2Semester)	65 - 65	2
		介護福祉研究法(3Semester)	66 - 66	3
		介護福祉研究法(4Semester)	67 - 67	4
介護実習		介護実習Ⅰ(体験実習Ⅰ)	68 - 68	1
		介護実習Ⅰ(体験実習Ⅱ)	69 - 69	1
		介護実習Ⅰ(体験実習Ⅲ)	70 - 70	3
	介護実習Ⅰ(体験実習Ⅳ)	71 - 71	4	
	介護実習Ⅱ(展開実習A)	72 - 72	2	
	介護実習Ⅱ(展開実習B)	73 - 73	3	

領域		授業科目の名称	ページ	開講 semester
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころのしくみ	74 - 74	1
		からだのしくみ	75 - 76	1
		生活に関連したこころとからだのしくみ	77 - 79	2
		精神保健	80 - 81	2
	発達と老化の理解	発達と老化の心理学	82 - 82	2
		老化と高齢者の健康	83 - 84	2
	認知症の理解	認知症のケアⅠ	85 - 86	1
		認知症のケアⅡ	87 - 88	2
	障害の理解	障がいの医学的理解	89 - 90	1
		障がいの理解	91 - 92	1
医療的ケア	医療的ケア概論Ⅰ	93 - 94	3	
	医療的ケア概論Ⅱ	95 - 96	4	
	医療的ケア演習	97 - 97	4	
本学独自科目	キャリアアップ教育Ⅰ	最初の授業時に提示	1	
	キャリアアップ教育Ⅱ		2	
	キャリアアップ教育Ⅲ		3	
	キャリアアップ教育Ⅳ		4	
	地域文化の創造	98 - 99	1~4	
	国家試験基礎演習(2semester)	100 - 100	2	
	国家試験基礎演習(3semester)	101 - 101	3	
	国家試験基礎演習(4semester)	102 - 102	4	
	福祉のための日本語Ⅰ(介護現場におけるコミュニケーション)	103 - 103	1	
	福祉のための日本語Ⅱ(こころとからだに関する日本語)	105 - 105	1	
	福祉のための日本語Ⅲ(人間と社会に関する日本語)	107 - 107	2	
	福祉のための日本語Ⅳ(日本の文化に関する日本語)	108 - 108	2	
	福祉のための日本語Ⅴ(文章表現)	109 - 109	3	

地域総合介護福祉学科「主要科目」

地域総合介護福祉学科では、卒業を認定し、短期大学士(介護福祉学)の学位を授与するにあたり、以下の項目を Diploma Policy(卒業認定・学位授与の方針)に設定しています。

1. 介護や福祉を学ぶことを通して、豊かな人間性と社会性を身につけている
2. 客観的な事実から物事を考え、判断できる
3. 介護や福祉に対する深い関心を持ち、主体的に学び、自ら考えられる力を身につけている
4. 人権を尊重し、人間の尊厳を護るための態度を身につけている
5. コミュニケーションの基礎となる発信、伝達、記録の技法を身につけている

1～5項目の Diploma Policy を介護福祉士国家試験受験資格取得のために規定されている授業内容を踏まえ、地域総合介護福祉学科では以下の科目を主要科目として設定しています。

「人間論」

「人間関係とコミュニケーションⅠ・Ⅱ」

「生活と社会福祉Ⅰ・Ⅱ」

「介護の基本」

「介護対象者論Ⅰ・Ⅱ」

「尊厳と自立を支える介護」

「家政学概論」

「介護現場におけるコミュニケーション技術」

「視覚障がい者とのコミュニケーション」

「聴覚障がい者とのコミュニケーション」

「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

「栄養・調理の方法」

「介護過程の基本」

「介護過程の展開Ⅰ・Ⅱ」

「介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

「介護福祉研究法」

「介護実習Ⅰ・Ⅱ」

「こころのしくみ」

「からだのしくみ」

「生活に関連したこころとからだのしくみ」

「発達と老化の心理学」

「老化と高齢者の健康」

「認知症のケアⅠ・Ⅱ」

「障がいの医学的理解」

「障がいの理解」

「医療的ケア概論Ⅰ・Ⅱ」

「医療的ケア演習」

「地域文化の創造」

図1 地域総合介護福祉学科 主要科目カリキュラムマップ(1・2セメスター)

	第1セメスター	第2セメスター
の人間と社会 理解に関する 科目	500111 人間関係とコミュニケーションⅠ	300112 生活と社会福祉Ⅰ
		520120 人間関係とコミュニケーションⅡ
		300121 生活と社会福祉Ⅱ
介護の専門性に関する 科目	400210 介護の基本	300212 生活支援技術Ⅰ
	200213 介護過程の基本	100220 介護対象者論Ⅰ
		500221 介護現場におけるコミュニケーション技術
		300222 生活支援技術Ⅱ
		220223 介護過程の展開Ⅰ
実習に関する 科目	120210 介護総合演習Ⅰ	120220 介護総合演習Ⅱ
	120211 体験実習Ⅰ	320221 介護福祉研究法
	120212 体験実習Ⅱ	120222 展開実習A
こころとからだのしくみ に関する科目	200310 認知症のケアⅠ	220311 障がいの医学的理解
	100312 障がいの理解	220313 こころのしくみ
	220314 からだのしくみ	210320 老化と高齢者の健康
		210321 発達と老化の心理学
		220322 認知症のケアⅡ
		220323 精神保健
		200324 生活に関連したこころとからだのしくみ
医療的ケア		
独自科目	100511 地域文化の創造	100511 地域文化の創造

図2 地域総合介護福祉学科 主要科目カリキュラムマップ(3・4セメスター)

	第3セメスター	第4セメスター
の人間と社会 理解に 関する 科目	400130 人間論	
介護の 専門性 に関 する 科目	100230 介護対象者論Ⅱ 520232 視覚障がい者とのコミュニケーション 520233 聴覚障がい者とのコミュニケーション 320234 生活支援技術Ⅲ 220236 介護過程の展開Ⅱ	200240 尊厳と自立を支える介護 120242 生活支援技術Ⅳ 220244 介護過程の実践的展開 120241 家政学概論 200237 ケアマネジメント論
実習に 関する 科目	120230 介護総合演習Ⅲ 120232 展開実習B 320231 介護福祉研究法 120233 体験実習Ⅲ	120240 介護総合演習Ⅳ 120242 体験実習Ⅳ 320241 介護福祉研究法
この ところ から だの しく みに 関 する 科目		
医療 的 ケ ア	220430 医療的ケア概論Ⅰ	320240 医療的ケア概論Ⅱ 120441 医療的ケア演習
独 自 科 目	100511 地域文化の創造	100511 地域文化の創造

表記の説明①

必須科目
選択必須科目
選択科目

表記の説明②

科目左上の番号は、左から順に下記の内容を表しています。

- ・ディプロマポリシー:1~5
- ・卒業必須科目:0-必須科目、1-選択必須科目、2-選択科目
- ・資格必須科目:0-必須科目、1-選択必須科目、2-選択科目
- ・領域:1-人間と社会、2-介護、3-こことからだのしくみ、4-医療的ケア、5-本学独自科目
- ・開講セメスター:1-第1セメスター、2-第2セメスター、3-第3セメスター、4-第4セメスター
- ・識別番号:0~9

地域総合介護福祉学科

授業のタイトル (科目名) 人間論	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義	授業担当者 上原 千寿子
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	病院の医療ソーシャルワーカーとして在宅医療福祉活動にかかわった経験を活かして、そこでの患者や家族の抱える生活問題や、基盤を支える生活支援の重要性をリアルに伝えたい。	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉の対象であり、またその担い手でもある「人間」の理解を基盤として、人間としての尊厳の保持と「自立」した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題に対応するための基礎的能力を身につける。		主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 人類のこれまでの歩みを追いながら、その時代の中で、人間の生命と尊厳はどのように扱われてきたのか、「尊厳の保持」や「自立支援」はどのように行われてきたのかを学び合い、現代に求められる「人間の尊厳と自立」のあり方を探求したい。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 長い歴史の中でつかみとられてきた「人間の尊厳」に根ざし、「自立」を支える生活のあり方やそこでの支援方法を、利用者と共に考えていける価値観を身につける。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
1) オリエンテーションー自己紹介・講義概要の説明と意見交換		自己紹介と、シラバスを読み、さらに講義で取り上げてほしいことを考えてくる。(30分)
2) 地球の歴史、人類誕生と進化の中で、ケアの意味を問い直す ーケアし合う動物としての人間、哺乳類で一番寿命の長い人間・・・		前回配布資料を読んでくる。(30分)
3) 人は人をどう援助しようとしてきたか ①前史		前回配布資料を読んでくる。(30分)
4) ②罪人として罰することから労働力としての活用へ ー資本制社会の下で、世界の社会政策・社会保障。社会福祉の出発点となったエリザベス救貧法		前回配布資料及びテキストの第1章第1節4.5.の該当部分前後を読んでくる。(45分)
5) ③劣等処遇の原則と道徳的助言+自然淘汰・適者生存 ー産業革命と新救貧法、その社会的背景としての自由放任主義・ピューリタンの貧困感、『種の起源』(⇒社会ダーウィニズムへ)		同上
6) ④「個人」と「個人をめぐるか環境」への注目と社会改良 ー慈善の組織化と友愛訪問で見た貧困の社会性、「ケースワークの母リッチモンド」の問題提起		同上
7) ⑤「社会適応のためのパーソナリティの強化」と優性思想の政策化 ー戦争が援助に及ぼした影響		同上
8) ⑥「生存権保障」⇒「人間らしく生きる権利」⇒「その人らしく生きる権利」(1980～) ー世界大戦後の社会保障・社会福祉の出発点としての世界人権宣言		同上
9) ⑦新たな貧困問題・人権問題と公民権運動・福祉権運動のもとで ーバイステックの7原則・「医療モデル」から「生活モデル」へ・ケースマネジメント・IL運動・ピアサポート・エンパワメント		同上
10) ⑧自立の概念の変化を、その歴史的発展と当事者の問題提起を通して再認識する		前回配布資料及びテキストの第1章第2節「自立のあり方」を読んでくる。(60分)
11) ⑨障害のとらえ方と「障害者に関する世界行動計画(1981) ーノーマライゼーションとQOL・WHO国際障害分類・生活機能分類		前回配布資料及びテキスト第1章第1節4.5.の該当部分前後を読んでくる。(45分)
12) ⑩生命倫理と介護福祉労働		同上
13) 人類が初めて体験する「人生80年時代の介護問題」にどう向き合うか		前回配布資料を読んでくる。(30分)
14) 現代に求められる「人間の尊厳と自立」とは		これまでの講義資料を見直してくる。(60分)
15) まとめと評価		
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座1『人間の理解』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2919		
[参考文献] 随時、紹介する。		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		

① 到達度の確認 (10 %)	
② 実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
① 筆記試験 (60 %)	
② レポート (30 %)	
③ 実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
定期試験の直後に、解答を皆で考察する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

400130

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーション I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 片平 誓子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
□ 実務経験		心理学の知見とワークショップデザイナーとしての実務経験を活かし、理論に基づく体験的な学習を実施する			
[授業の目的・ねらい] コミュニケーションの基本となる自己理解を通し、他者の思いや価値観の違いに気づくことで、多様な人々に対して情報を正しく伝えるための技術を体得し、それを実践できる。そして、受容と共感の気持ちを持って、他者との人間関係を築くことができるようになる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 講義の中で学んだコミュニケーション理論とワークショップでの実体験を結びつけ、人間関係を築くための基礎となるコミュニケーション力を涵養する。また、個人だけでなくグループでの共同作業を行い、行ったことを振り返ることで、自分と他者との関係を見つめ直し、視野を広げることを目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 自分の行動を客観的に判断できる (メタ認知が可能となる)。多様な他者の立場を考慮した上でのスムーズな情報共有が出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) イントロダクション: ”コミュニケーション” について、心理学的側面からの理論形成、研究の歴史などの紹介			・ 授業前に配布した「まとめノート」全体に目を通し内容をつかんでおく (0.5 時間)		
2) 自己概念の理解: 自己を知ることが、他者との関係性を広げていくポイントであることを理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
3) メッセージの共有: 価値観の違う相手とのメッセージの共有について理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
4) 話す、きく: メッセージを伝え合うためには、相手の立場に立つことが重要であることを理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
5) 言語的コミュニケーション: 「言語」を使ったコミュニケーションの特徴を理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
6) 非言語的コミュニケーション: 「非言語」でのコミュニケーションの種類と特徴を理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
7) コミュニケーションの効果: 自分の話し方や態度が、相手にどのような影響を与えるか理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
8) 印象形成と対人距離: 第一印象やステレオタイプ、相手との距離感が持つ心理的影響力について学習する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
9) 受容: 「相手を受け入れる」と言うことの大切さを理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
10) 共感: 「相手と共に感じる」と言うことの大切さを理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
11) 一方向・双方向のコミュニケーション: それぞれの特徴と違いを理解する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
12) 交流分析: エゴグラムを通して、他者との関わり方への応用を学習する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
13) 自己開示とフィードバック: 適切な自己開示の方法を学習する (グループワークあり)			・ 「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5 時間)		
14) 前期のまとめ①: 前期で学んだこと全てをふり返し、皆で協力しながら課題に取り組む (グループワークあり)			・ 「まとめノート」の内容を復習し、学んだ知識を使う準備をしておく (0.5 時間)		
15) 前期のまとめ②: 前期で学んだこと、自分の成長などをふり返し、レポートを書く			・ 講義ごとの「振り返りレポート」を読み、レポートを書く準備をしておく		
[使用テキスト]					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (%)					

②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
① 筆記試験 (70%)	「まとめノート」の内容をきちんと把握し、知識が身に着いているか
② レポート (30%)	振り返りレポートが活かされているか・自分の考えを自分の言葉で書いているか
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 講義内のグループワークについて、その意味を毎回示す。レポートについてはレポート内のコメントでフィードバックする。試験については、解答用紙を返却し、正誤についてまとめノートで確認できるようにする	
[備考]この講義では、講師の一方的な知識伝達ではなく、講義内容を実質的に理解するため各種ワークショップを実施します。ワーク時にはグループで活動することも多いですが、極端に私語が多かったり、講義とは関係のない活動（休憩する、寝るなどの行為）が目立ったりする場合には、評価得点に加味しますので注意してください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

500111

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーションⅡ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 片平 誓子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験		心理学の知見とワークショップデザイナーとしての実務経験を活かし、理論に基づく体験的な学習を実施する			
[授業の目的・ねらい] 1セメスターで学んだ自己・他者理解の知識をもとに、多様な人々や異業種とのチームを作ること、それを維持することが積極的に出来るようになる。リーダーシップやファシリテーションのスキルを身に着け、チームの中で主体的に行動できるようになる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 講義の中で学んだコミュニケーション理論とワークショップでの実体験を結びつけ、人間関係を築くための基礎となるコミュニケーション力を涵養する。また、グループで共同作業を行い、様々な課題を協力しながら解決することを通して、多様な他者とのチームワークを構築する方法を身に着ける。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] お互いを尊重しながら、チームの中での自分の役割を果たせるようになっている。自分の意見をしっかりと伝え、仲間とともに様々な課題に取り組むことができている。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 集団におけるコミュニケーション①: 集団的コミュニケーションの基本について知る (グループワークあり)			・授業前に配布した「まとめノート」に目を通し内容をつかんでおく (0.5時間)		
2) 集団におけるコミュニケーション②: 職場や組織、グループとの関わり方を学習する (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
3) チームマネジメントとは何か①: チームマネジメントの基本を知る (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
4) チームマネジメントとは何か②: チームの中で起こっていることや、プロセスへの対応の仕方を学習する (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
5) ホスピタリティ: 相手の気持ちを思いやることについて学習する (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
6) チームでの情報共有と合意形成①: チームワークとは何か、またチームでの情報共有について知る (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
7) チームでの情報共有と合意形成②: チーム形成の流れと、チームの力を伸ばす方法について学習する (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
8) リーダーシップ①: リーダーとして必要な資質について知る (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
9) リーダーシップ②: リーダーの役割と種類について知る (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
10) リーダーシップ③: リーダーとチームの関係について知る (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
11) チームの維持①: コーチングを通してチームメンバーを伸ばす方法について知る (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
12) チームの維持②: ストレスコーピングとアサーション～働きやすい職場とよいチームを作るために必要なことを知る (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
13) チームの維持③: 会議の進め方と合意形成について知る (グループワークあり)			・「まとめノート」で予習し、ブランク箇所への自分の考えをまとめておく (0.5時間)		
14) 後期のまとめ①: 後期学んだこと全てを使い、チームで課題に取り組む (グループワークあり)			・「まとめノート」の内容を復習し、学んだ知識を使う準備をしておく (0.5時間)		
15) 後期のまとめ②: 1年間通して自分とチームがどう変化したかを振り返り、レポートを書く (グループワーク・プレゼンテーション)			・講義ごとの「振り返りレポート」を読み、レポートを書く準備をしておく		
[使用テキスト]					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					

②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
① 筆記試験 (70%)	
② レポート (30%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 講義内のグループワークについてはその意味を毎回示す。レポートについてはレポート内のコメントでフィードバックする。試験については、解答用紙を返却し、正誤についてまとめノートで確認できるようにする	
[備考]この講義では、講師の一方的な知識伝達ではなく、講義内容を実質的に理解するため各種ワークショップを実施します。ワーク時にはグループで活動することも多いですが、極端に私語が多かったり、講義とは関係のない活動（休憩する、寝るなどの行為）が目立ったりする場合には、評価得点に加味しますので注意してください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

500120

授業のタイトル (科目名) 生活と社会福祉 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 石田 一紀	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1	セメスター	卒業必修・資格必修	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	10年間のMSWの実践を人間の生活構造・人権・ニーズ把握等に体系的に反映させていく。				
[授業の目的・ねらい] 1. 社会福祉の概念を理解することで、社会福祉の視点を持って要介護者の生活課題を明らかにできる 2. 介護福祉を取り巻く社会的状況を把握し、現代社会における社会福祉の必要性を理解し説明できる 3. 社会福祉制度の仕組みを理解し、要介護者の生活と福祉の関係性を理解し説明できる 4. 人権擁護の視点に立って、対象者の生活を見る事の必要性を理解し説明できる					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 授業は、レジュメ及びテキストを中心に、目的・ねらいに沿って説明していきます。演習や視聴覚教材を用いながら、学生が参加する時間を設けます。社会福祉の歴史や方法論を学ぶことで、社会福祉の考え方についての学生の理解を目指します。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 日常生活にある様々な生活問題について主体的に捉えることができ、「暮らしやすく快適な生活」を実現するための理論と方法を理解し、介護現場で活用できるための方法を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 私たちの生活とその構造			講義概要を熟読し、質疑に備える (30分)		
2) 家族の役割と変化、社会と組織			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
3) 社会福祉とは			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
4) 社会福祉の思想			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
5) 「人間」とは何かを考える			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
6) 主体的・目的意識的な生活行為としての介護			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
7) 日本における社会保障制度の発達①			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
8) 日本における社会保障制度の発達②			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
9) 要介護者の生活を支える社会保障制度の概要①			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
10) 要介護者の生活を支える社会保障制度のしくみ②			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
11) 高齢者福祉と介護保険制度			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
12) 障害者福祉と障害者保険福祉制度			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
13) 権利擁護に関わる制度			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
14) 地域共生社会の実現に向けた制度と施策			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
15) 福祉の対象者からみる今日の社会福祉制度			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規 「介護労働の本質と働きがい」萌文社、2019					
[参考文献]					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (60%)	学びの記録である講義ノート最終頁に2,000字程度で学習成果と今後の課題を記す
②実技・作品発表 (40%)	大学ノート片面に自主学習した記録と資料(コメント含む)を、片面に講義をどのように自ら深めていったかの記録を記し、これを毎週作成し講義のはじめに発表・提出する
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
最終講義終了時に講義全体のまとめと課題の説明を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

300112

授業のタイトル (科目名) 生活と社会福祉Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 知佐	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2	セメスター	卒業必修・資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 社会福祉の概念を理解し、要介護者の生活課題を社会福祉の視点から見ることができる。 2. 介護を取りまく状況を把握し、現代社会のける社会福祉の必要性を説明できる。 3. 社会福祉・社会保障制度のしくみを理解し、要介護者の生活と社会保障制度の関係を説明できる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 授業は、レジュメ及びテキストを中心に、社会福祉・社会福祉に反する思想、日本における社会福祉の歴史、社会保障制度のしくみについて講義する。社会福祉の実態をイメージできるように適宜視聴覚教材を使用する。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護対象者の生活課題を社会福祉の視点で捉えることができる。 2. 現在の日本における介護を取りまく社会的課題を述べることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 社会福祉の概念理解			用語の概念を調べる レジュメ集該当ページを読む		
2) 社会保障制度の変遷①～第2次世界大戦			レジュメ集該当ページを読む		
3) 社会保障制度の変遷②第2次世界大戦後～高度経済成長前			用語の概念を調べる レジュメ集該当ページを読む		
4) 社会保障制度の変遷③高度経済成長期			前もって配布した資料を読む		
5) 社会保障制度の変遷④高度経済成長期～1990年代			テキスト該当ページを参考にレジュメ集の空欄を埋める		
6) 社会保障制度の変遷⑤2000年～現在			テキスト該当ページを参考にレジュメ集の空欄を埋める		
7) 社会保障制度の全体像			テキスト該当ページを参考にレジュメ集の空欄を埋める		
8) 社会保障制度のしくみ			テキスト該当ページを参考にレジュメ集の空欄を埋める		
9) 社会保険制度のしくみ① (年金, 医療保険, 雇用保険, 労災保険)			テキスト該当ページを読む 分からない用語の意味を調べる		
10) 社会保険制度のしくみ② (介護保険)					
11) 社会扶助・社会福祉のしくみ			テキスト②レジュメ集該当ページを読んでおくこと (30m)		
12) 高齢者の生活を支える法制度 (介護保険以外)					
13) 障がい者の生活を支える法制度			テキスト①66-68pを読んでおくこと (30m)		
14) 社会保障制度実施主体の役割① 安来市健康福祉部職員による講義			事前に提示する資料を見ておくこと (30m)		
15) 社会保障制度実施主体の役割② 安来市健康福祉部職員による講義			テキスト該当ページを読んでおくこと (30m)		
[使用テキスト] ①介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解第2版」中央法規 ②堅田知佐 (2025) 「『生活と社会福祉Ⅱ』レジュメ集」, 「『生活と社会福祉Ⅱ』資料集」 ③いとう総研編「社会保障制度指さしガイド2025年度版」日総研出版					
[参考文献] ①中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ②社会福祉法人大阪ボランティア協会編「福祉小六法2025」中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					

②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (100%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

300121

授業のタイトル (科目名) 地域社会における福祉専門職の役割		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 知佐	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 地域福祉の基礎的知識及び諸理論について説明することができる。 2. 現在、地域で生じている要介護者の生活課題を介護福祉士として解決できる理論と方法を提示することができる。 3. 地域包括ケアシステム、地域共生社会の概要を述べるることができる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 1. 地域福祉の概念、理論、制度、歴史を含めた地域福祉を学ぶ上での基礎的知識について講義する。 2. それをもとに地域福祉の現代的課題に対抗し得る諸理論と地域政策の動向について講義する。 3. 今後、介護福祉士に求められる技能とそれを活用した要介護者への支援の在り方についてグループワークを通して考察する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 地域福祉の概念、理論、制度、歴史を含めた基本的知識についての理解を深め、地域福祉の現代的諸課題に対抗し得る諸理論及び「 <u>地域共生社会</u> 」などの政策上の考え方について説明することができる。 2. そのことを踏まえた上で、地域福祉の現代的諸課題を分析することができるようになる。 3. 1及び2で学んだ知識を活用し、要介護者が <u>地域社会</u> で尊厳を保持しながら自分らしく生活していくために、今後介護福祉士に求められる具体的方法を提示することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 社会と生活のしくみ (生活の基本機能, ライフスタイルの変化)			テキスト 2-20 p を読む		
2) 社会と生活のしくみ (家族の機能・役割・変化, 社会・組織の機能・役割・変化)			テキスト 21-27 p を読む		
3) 社会と生活のしくみ (地域, 地域社会, 地域社会における生活支援)			テキスト 28-31 p を読む		
4) 少子高齢・人口減少社会における課題			テキスト 101-110 p, 参考図書 2-11 p を読む		
5) 地域福祉の発展と新たな枠組み			テキスト 34-42 p, 参考図書 12-21 p を読む		
6) 地域福祉の対象と課題			参考図書 22-31 p を読む		
7) 地域福祉の思想と理論			参考図書 32-41 を読む		
8) 福祉コミュニティの形成			参考図書 42-51 p を読む		
9) 地域福祉の政策と計画, 地域福祉計画の住民参加と組織化			参考図書 78-87 p, 98-106 p を読む		
10) 地域共生社会と地域包括ケア			テキスト 43-52 p を読む		
11) 介護保険制度における地域支援事業と組織の役割			テキスト 128-135 p, 166-194 p を読む		
12) 障害者総合支援法における地域生活支援事業と組織の役割			テキスト 228-251 p を読む		
13) 地域で暮らす個人の権利を守る制度			テキスト 254-277 p を読む		
14) 貧困と生活困窮に関する制度			テキスト 292-300 p を読む		
15) 地域生活を支援する制度			テキスト 301-312 p を読む		
[使用テキスト] ①介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座2 社会の理解」, 中央法規出版社 ②授業で配布するレジュメ					
[参考文献] ①野口定久 (2015) 「ゼミナール地域福祉学図解でわかる理論と実践」 中央法規出版社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (20%)		授業内で提示するレポート課題, 発表の内容を評価する。			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (80%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					

④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

320130

授業のタイトル (科目名) 日本の生活文化		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 藪内 和子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1	セメスター	必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会を見つめる豊かな感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。 地域の特性を活かし歴史と伝統のある民俗芸能を体験することにより地域及び地域に暮らす人々を理解し、介護の実際に活かすことができるようになる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 講義によって、安来節の歴史や背景となる文化を学ぶ。歴史と伝統のある民俗芸能として培われた安来節を知る。安来節の唄や踊り、銭太鼓などの実践を体験する。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 安来節を通して、地域の特性や歴史及び地域に暮らす人々を理解する。安来節の唄や踊り、銭太鼓などの体験を通し、将来介護の現場で活かすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 安来節の唄について①					
2) 銭太鼓について①					
3) 安来節の唄について②			授業の内容を学生同士で復習、練習すること。(30分～60分)		
4) 銭太鼓について②			できれば毎日5分～10分程度銭太鼓を実際に手にとり練習する。		
5) 安来節の唄について③			授業の内容を学生同士で復習、練習すること。(30分～60分)		
6) 銭太鼓について③			できれば毎日5分～10分程度銭太鼓を実際に手にとり練習する。		
7) 安来節の唄について④			授業の内容を学生同士で復習、練習すること。(30分～60分)		
8) 銭太鼓について④			できれば毎日5分～10分程度銭太鼓を実際に手にとり練習する。		
9) 安来節の唄について⑤			授業の内容を学生同士で復習、練習すること。(30分～60分)		
10) 銭太鼓について⑤			できれば毎日5分～10分程度銭太鼓を実際に手にとり練習する。		
11) 安来節の唄について⑥			授業の内容を学生同士で復習、練習すること。(30分～60分)		
12) 銭太鼓について⑥			できれば毎日5分～10分程度銭太鼓を実際に手にとり練習する。		
13) 総復習、発表会にむけての準備をする			授業の内容を学生同士で復習、練習すること。(30分～60分)		
14) 総合演習① 外部施設にて発表会をする			授業の内容を学生同士で復習、練習すること。(30分～60分)		
15) 総合演習② 外部施設にて発表会をする			授業の内容を学生同士で復習、練習すること。(30分～60分)		
[使用テキスト] 必要に応じて資料を配布する					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					

②実技・作品発表 (100%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 第15回講義の発表会時に解説し、フィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

111113

授業のタイトル (科目名) 日本国憲法		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 永松 正則	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター	必修		
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 高齢者、社会的弱者にやさしい社会を作るために、社会の仕組み、とくに基本的人権、法制度を理解し説明できる。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 生命身体を守り、個人の自己決定を尊重する福祉の実現のために、憲法が保障する基本的人権（私人間における人権問題を含む）と統治機構について学びます。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 憲法が保障する基本的人権について、とくに高齢者や障がい者の権利という視点から、また介護福祉士という視点から説明できる。 人権侵害に関する司法的・行政的救済場面において、論理的に自分の考えを展開することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 憲法総論 憲法の学習を始める上で必要となる近代憲法史、憲法の基本原理である「立憲主義」、「国民主権」、「平和主義」、「基本的人権の尊重」などを概観し、授業の射程を明らかにします。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
2) 基本的人権総論 個々の人権規定に共通する以下のテーマについて解説します。（1）人権享有主体、（2）人権の分類			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
3) 幸福追求権 「新しい人権」の源となっている幸福追求権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
4) 法の下での平等 何が憲法が要求する「平等」なのか。専属殺重罰規定、女性の再婚禁止期間規定、夫婦別姓制度など具体的な裁判例を通じて明らかにしていきます。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
5) 自由権 思想良心の自由、信教の自由、職業選択の自由などの自由権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
6) 表現の自由 自由権の中でもとりわけ重要な表現の自由について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
7) 生存権 何が「健康で文化的な最低限度の生活」なのか、朝日訴訟などの裁判を通じて明らかにします。また生存権を具体化している諸法律について紹介します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
8) 社会権 教育を受ける権利、労働基本権などの社会権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
9) 受益権（国務請求権）、参政権 第3回から第8回までで扱わなかった人権について、最高裁判所の違憲判決を通じて解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
10) 基本的人権のまとめ 第9回までの内容をまとめ、人権の限界について考えます。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
11) 立法と国会 国会の仕組みと権能などを明らかにします。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		
12) 行政と内閣 議院内閣制と大統領制の違い、内閣の組織・権限、内閣総理大臣の権限などについて解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。（1時間）		

13) 司法と裁判所 日本裁判制度と裁判組織などについて解説します。	[事前事後学習] 担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
14) 違憲審査制 最高裁判所の違憲判決を通じて、日本の違憲審査制の特徴について解説します。	[事前事後学習] 担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
15) 到達度の確認	[事前学習] 授業内で配布した資料・小テストを確認する。(1時間)
[使用テキスト] 授業で扱う裁判例がコンパクトに解説されている野中・江橋『憲法判例集(第12版)』(有斐閣新書・2022)を指定します。 ※授業は担当者が用意する資料にそって行います	
[参考文献] 定評のある教科書として多くの大学で指定されている芦部信喜『憲法(第7版)』(岩波書店・2019)があります。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(100%)	第15回授業内で講義内容の理解度を確認(筆記)し、成績評価します。
②実技・作品発表(%)	
【定期試験】	
①筆記試験(%)	
②レポート(%)	
③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 全授業終了後、正答を開示します。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

411114

授業のタイトル (科目名) 介護の基本		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 石田 一紀	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		10年間のMSWの実践を介護の人間・及び生活理解に反映させていく。			
[授業の目的・ねらい] 介護福祉を取り巻く状況と課題を理解し、 <u>介護福祉士</u> として果たすべき役割を理解する。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] テキスト、レジュメ及び必要な情報については適宜補足資料を用意しながら、目的・ねらいに沿って講義を行う。介護及び介護福祉についての基礎理論を関連分野の知識を応用しながら講義を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護の専門職として必要な知識や理念を理解し、今後の介護の方向性について考察することができる。専門職業人としての自覚と意識を持つことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) <u>介護の基本理念</u> (尊厳の保持と自立支援)			講義概要を熟読し、質疑に備える (30分)		
2) <u>介護福祉士の倫理</u>			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
3) <u>介護とは何か①</u> (介護福祉の定義)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
4) <u>介護とは何か②</u> (介護の対象・提供の場・担い手)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
5) <u>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ①</u> (「社会福祉士及び介護福祉士法」)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
6) <u>介護福祉士の役割と機能を支える仕組み②</u> (介護の担い手としての行動指針)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
7) <u>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ③</u> (サービス提供施設における介護職員の役割)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
8) <u>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ④</u> (専門職能団体の活動)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
9) <u>協働する多職種の役割と機能</u>			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
10) <u>介護現場における安全の確保とリスクマネジメント</u>			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
11) <u>介護従事者の安全</u>			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
12) <u>その人らしさを活かす介護過程</u>			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
13) <u>生きる意欲と生きている喜びを取り戻すための介護過程</u>			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
14) <u>生きがいの節目をつなぐ介護過程</u>			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
15) <u>願いをわかちあう集団作りと生活基盤を創造していく介護過程</u>			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
[使用テキスト] ・介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ」中央法規出版 ・介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規出版 ・「介護労働の本質と働きがい」萌文社、2019					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					

①到達度の確認 (60%)	学びの記録である講義ノートの最終頁に2,000字程度で学習成果と今後の課題を記す
②実技・作品発表 (40%)	大学ノート片面に自主学習した記録と資料(コメント含む)を、片面に講義をどのように自ら深めていったかの記録を記し、これを毎週作成し講義のはじめに発表・提出する
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 最終講義終了時に講義全体のまとめと課題の説明を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

400210

授業のタイトル (科目名) 介護対象者論 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 石田 一紀	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2	セメスター	卒業必修・資格必修	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	10年間のMSWの実践を講義における介護対象理解に体系的に反映させていく。				
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えることができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 1. 介護を必要とする人の生活を事例を交えて説明していく。 2. 介護サービスの概要を説明していく。 3. 介護サービスの提供の場の特性を説明していく。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護を必要とする人の生活実態を理解し、説明できる。 2. 介護サービスの概要を説明できる。 3. 介護サービスがどこでどのように提供されているかについて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) <u>介護を必要とする人の理解</u>			講義概要を熟読し、質疑に備える (30分)		
2) 人間の多様性・複雑性の理解			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
3) 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
4) 高齢者・障がい者の生活の理解と介護者の気づき①			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
5) 高齢者・障がい者の生活の理解と介護者の気づき②			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
6) 介護サービスと人間の欲求			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
7) 介護サービスの概要① (高齢者福祉サービス)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
8) 介護サービスの概要② (介護保険サービス)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
9) 介護サービスの概要③ (障がい者福祉サービス)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
10) 介護サービスの概要④ (障害者自立支援制度におけるサービス)			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
11) 生きがい支援と介護の本質			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
12) 生活史と「その人らしさ」			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
13) 生きる意欲と生きている喜びを取り戻すための支援			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
14) 介護福祉という仕事の特長と介護職の発達①			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
15) 介護福祉という仕事の特長と介護職の発達②			講義時、指示のあった内容を準備学修する (30分)		
[使用テキスト] ・介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ」中央法規出版 ・介護福祉士養成講座編集委員会編「最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規出版 ・「介護労働の本質と働きがい」萌文社、2019					
[参考文献]					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (60%)	学びの記録である講義ノートの最終頁に2,000字程度で学習成果と今後の課題を記す
②実技・作品発表 (40%)	大学ノート片面に自主学習した記録と資料(コメント含む)を、片面に講義をどのように自ら深めていったかの記録を記し、これを毎週作成し講義のはじめに発表・提出する
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
最終講義終了時に講義全体のまとめと課題の説明を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

100220

授業のタイトル (科目名) 介護対象者論Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 深田仁志	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		地方自治体の福祉行政におけるソーシャルワーカー等の実践経験を体系的に伝えたい。			
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として実務上必須知識である、各種の公的・私的サービスや多職種連携の実際について正確に理解し、他者へ説明できるようにすることが本科目の目的 (ねらい) である。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] テキスト第2章「介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ」と、第4章「協働する多職種の機能と役割」を中心に、生活を支える各種サービス(フォーマル・インフォーマル)及び他職種の役割と機能、多職種連携の実際を理解するために講義と演習を行う。 上記[授業の目的・ねらい]にも記したように、この分野は介護福祉士としての必須知識の範囲であり、クライアントの支援のみならず他の専門職との多職種連携・協働の前提となる分野であることから、授業への積極的な参加を求める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護福祉士として必要となる各種サービスや多職種連携等に関する内容を理解し、他者に適切に説明ができることを到達目標とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1)～3) 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ (その1) ～地域共生社会、地域包括ケアシステム、フォーマルサービス			テキスト「介護の基本Ⅱ(第2版)」 第2章第1節～第2節 (p47～p63) (各講義前予習 30分)		
4)～6) 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ (その2) ～インフォーマルサービス、地域連携に関わる機関、地域連携の実際			テキスト「介護の基本Ⅱ(第2版)」 第2章第3節～第4節 (p64～p85) (各講義前予習 30分)		
7)・8) 協働する多職種の機能と役割 (その1) ～多職種連携・協働の必要性とは?			テキスト「介護の基本Ⅱ(第2版)」 第4章第1節 (p145～p157) (各講義前予習 30分)		
9)・10) 協働する多職種の機能と役割 (その2) ～多職種連携・協働に求められる基本的な能力			テキスト「介護の基本Ⅱ(第2版)」 第4章第2節 (p158～p172) (各講義前予習 30分)		
11)・12) 協働する多職種の機能と役割 (その3) ～多職種連携・協働を担う保健・医療・福祉職の役割と機能			テキスト「介護の基本Ⅱ(第2版)」 第4章第3節 (p173～p189) (各講義前予習 30分)		
13)・14) 協働する多職種の機能と役割 (その4) ～多職種連携・協働の実際			テキスト「介護の基本Ⅱ(第2版)」 第4章第4節 (p190～p206) (各講義前予習 30分)		
15) 総まとめ【テキスト、レジュメ及び資料等の確認】			テキスト「介護の基本Ⅱ(第2版)」第2・4章、 配布済みのレジュメ及び資料の確認 (講義前予習 30分)		
[使用テキスト] ○介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ(第2版)」(2022)中央法規出版 ※テキストの内容を補完するために講義ごとにレジュメ(資料を含む)を配布する。					
[参考文献] ①中央法規出版編集部「介護福祉用語辞典 七訂」(2015)中央法規出版 ②社会福祉法人大阪ボランティア協会編集「福祉小六法2025」(2024)中央法規出版					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（30%）	試験形式にこだわらず、授業での発表内容等を含めた学習到達度を評価する。 また、随時過去問等を用いて理解度の確認を行う予定である。
②実技・作品発表（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（70%）	学期末に筆記試験を行う。
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「平常点評価」としては、授業中の受講態度（積極的な発言）などを評価する。 【詳しくは授業にて説明する】
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。また、必要に応じて個別に説明する。	
[備考] 講師の都合により、前年度に引き続き本年度についても月1、2回、各2コマから4コマ程度集中して授業を行う。 開講予定日（○数字が開講回を示す）：改めて提示する。 最終講義（第15回目）には、配布したレジュメ及び資料等を持参すること。【定期テスト対策を併せて実施する予定】	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

100230

授業のタイトル (科目名) 尊厳と自立を支える介護		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 山本 克哉	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4	セメスター	卒業必修・資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 人間の尊厳について様々な視点から説明することができる。 2. 自立の概念を理解し、説明することができる。 3. 介護福祉士としての倫理を述べることができる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 1. 人間の尊厳を、法律や生命倫理、要介護者の生活等の視点から考え、介護現場における具体的な支援方法と尊厳を守ることの困難さとその解決策を考察する。 2. 自立の概念について講義した上で、自立を支援するとはどのようなことかを考察する。 3. 倫理とは何かについて講義する。 4. 介護福祉士倫理綱領を読み、具体的な意味と介護現場でどのように実践するかを考察する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 人間の尊厳と自立を支える介護とはどのような介護かを説明することができる。 2. 介護福祉士としての倫理について説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 尊厳とは何かを考える① 人間の尊厳と人権			テキスト「最新介護福祉士養成講座1人間の理解」第1章を読み、不明な点を調べる(2h)		
2) 尊厳とは何かを考える② 日本国憲法第13条を考える			事前に配布する資料を読み、不明な点を調べる(3h)		
3・4) 尊厳とは何かを考える② 生命倫理の視点から命は誰のものかについて考えてみる			事前に配布する資料を読み、不明な点を調べる(2h)		
5・6) 尊厳とは何かを考える③ 要介護者の生活実態から考える					
7) 自立とは何かを考える① 自立の概念、自立と依存について			テキスト「最新介護福祉士養成講座1人間の理解」第2章を読み、不明な点を調べる(2h)		
8・9) 自立とは何かを考える② 自立支援について事例をもとに考える					
10) 倫理とは何かを考える① 倫理の意味を理解する					
11・12) 倫理とは何かを考える② 日本介護福祉士会倫理綱領を具体的に見てみる			日本介護福祉士会倫理綱領を読んでおく(30min)		
13) 倫理とは何かを考える③ プライバシー保護と介護の倫理					
14) 虐待・介護殺人と介護の倫理			事前に配布する資料を読み込んでおく(1h)		
15) 介護福祉士としての職業倫理					
[使用テキスト] ① 介護福祉士養成講座編集委員会編(2023)「最新介護福祉士養成講座1人間の理解第2版」中央法規出版 ② 介護福祉士養成講座編集委員会編(2022)「最新介護福祉士養成講座3介護の基本第2版」中央法規出版					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認(50%)		授業内で行う課題を評価する			
② 実技・作品発表(%)					
【定期試験】					
① 筆記試験(50%)					
② レポート(%)					
③ 実技試験(%)					
④ 面接試験(%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					

個人ワーク，プレゼンテーション結果の総評をその都度行う。

[備考]

演習結果に対する教員コメント及びクラスでのディスカッション後の気づきを次の演習に反映させること。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2002501

授業のタイトル (科目名) リハビリテーション論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義、実技		授業担当者 木村 昌実、金弦 敬子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		理学療法士として臨床に携わった経験と知見からリハビリテーションの本質を教授する。			
[授業の目的・ねらい] 単にリハビリテーションの定義や技術・知識を知るのではなく、正しい人間存在を理解した上で、リハビリテーションの理念、基本事項を理解し、日常業務で遭遇するリハビリテーション場面を根拠をもって説明でき、利用者等に個人を尊重した適切な援助を行えるようになることを目的とする。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] リハビリテーションの理念、障害への理解、リハビリテーション領域と役割、リハビリテーションに関する社会資源、福祉用具、住宅改修、福祉のまちづくり、リハビリテーション介護（日常生活の自立支援、動作介助の方法等）、地域リハビリテーション、障害別リハビリテーション、終末期リハビリテーションについて、講義と実技を交え、適宜、印刷配布物、視覚教材、レポートを使用し教授する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] [授業の目的・ねらい]に定める内容を達成できたか否か、期末試験（筆記試験ならびにレポート、加えて平常点を加味）を課し、規定に定める合格点（60%以上）に達することが最低限の目標となる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] * 本科目は理論を学ぶものであるため、基本的には講義を主体に行います。講義には、適宜、テキスト以外の印刷物の配布をします。 * また、第5章のⅡ、第6章のⅠ～Ⅶについては実技を交えての授業となります。 * 加えて、学生が自身の思考変容を自覚できるよう、本講義の第1回と最終回にレポートを課します。 【テーマ】 【内容】はわかりやすいよう、テキストの章立てに準じて記載しています。					[準備学修の内容]
1) 【テーマ】第0章 イントロダクション 【内容】第1章Ⅰの「リハビリテーションとは」につなぐため、障害の医学的・社会的意味の理解を促す。					
2) 【テーマ】第1章 リハビリテーションの理念 【内容】Ⅰ リハビリテーションとは					予習（テキスト2 P2～11）1時間程度
3) 【テーマ】第1章 リハビリテーションの理念 【内容】Ⅱ リハビリテーションに関連する諸制度					
4) 【テーマ】第2章 リハビリテーションの領域と役割 【内容】Ⅰ リハビリテーションの種類、Ⅱ リハビリテーションに関わる専門職					
5) 【テーマ】第3章 リハビリテーションに関する社会資源 【内容】Ⅰ 社会資源、Ⅱ 福祉サービス					予習（テキスト1）1時間程度
6) 【テーマ】第4章 リハビリテーションと福祉用具、住宅改修、福祉のまちづくり 【内容】Ⅰ 福祉用具					予習（テキスト1）1時間程度
7) 【テーマ】第4章 リハビリテーションと福祉用具、住宅改修、福祉のまちづくり 【内容】Ⅱ 住宅改造、Ⅲ 福祉のまちづくり					
8) 【テーマ】第5章 リハビリテーション介護 【内容】Ⅰリハビリテーション介護とは、Ⅱリハビリテーション介護技術の基本					
9) 【テーマ】第7章 地域リハビリテーション 【内容】Ⅰ地域リハビリテーションの目標と考え方、Ⅱ地域リハビリテーションの諸サービス、Ⅲ地域リハビリテーションシステム					
10) 【テーマ】第6章 障害別リハビリテーション（演習を含む） 【内容】Ⅰ 脳卒中、Ⅱ 呼吸循環障害					予習（テキスト2 P56～62, プリント）1～2時間程度

11) 【テーマ】第6章 障害別リハビリテーション（演習を含む） 【内容】Ⅲ 脊髄損傷、Ⅳ 大腿骨頸部骨折	予習（テキスト2 P70～75, プリント）1～2 時間程度
12) 【テーマ】第6章 障害別リハビリテーション（演習を含む） 【内容】Ⅴ 関節リウマチ、Ⅵ パーキンソン病	予習（テキスト2 P82～88, プリント）1～2 時間程度
13) 【テーマ】第6章 障害別リハビリテーション 【内容】Ⅶ 老化	予習（テキスト2 P151～161）1時間程度
14) 【テーマ】第6章 障害別リハビリテーション 【内容】Ⅷ 精神障害、認知症	予習（テキスト2 P172～179）1時間程度
15) 【テーマ】第8章 終末期リハビリテーション 【内容】事例検討とレポート作成	
[使用テキスト]	
1. 最新 介護福祉全書 別巻2 リハビリテーション論 メヂカルフレンド社 2. 介護福祉社士選書 新版リハビリテーション概論 建帛社	
[参考文献]	
リハビリテーションからみた介護技術 中央法規出版	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（10%）	講義のまとめを筆記、確認する
②実技・作品発表（10%）	実技の達成度を確認する
【定期試験】	
①筆記試験（80%）	筆記試験を実施する
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
試験の正答、文章題のキーワードは試験後にお知らせします。	
[備考]	
レポートのフィードバックは授業内で行うとともに、上記の配点で最終評価に加味する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

320231

授業のタイトル (科目名) 家政学概論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 磯部 美津子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験		県立大松江キャンパスにて『生活経営学』、『生活環境学』、『消費経済学』『実験・実習』等を担当			
[授業の目的・ねらい] 「生活」について理解すると共に、生活の基盤となる社会・経済環境の変化を踏まえた個人や家族の生活構造を考えることを通して、課題解決に向けてどうすればよいか考え、生活経営をめぐる現代的課題について概観することで社会の活動についても検討し、健康寿命を伸ばす工夫を積極的に行う。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 人の生活や行動、意識、コミュニティについての基礎的知識と、男女が協力して家庭や地域の生活を豊かにするための実践的態度を身に付ける。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ①生活経営に関する基本的な内容が説明できる。 ②現代社会の諸問題を、日常生活と結びつけながら理解できる。 ③生活資源、生活のプロセスなどの生活の成り立ちについて説明することができる。主に、生活設計、生活時間、労働、生活の保障に関する現状と課題について考え、説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 生活とは；生活の実現過程、生活の枠組み、生きていく為に必要な生活行為・活動を考える (30min.)			テキスト「社会の理解」1節・2節の解説(2回)		
2) 変動する現代の生活；生活構造の変化(15min.)			配布レジユメのまとめ (1hr)		
3) 変容する家族(30min.)			家族の変遷について話す(30min.)		
4) 家族と家族に関する法律(15min.)			家族の関係性の変化のまとめ (20min)		
5) 生活時間の捉え方と生活時間の実態(30min.)			P46～p48 生活行動との関連で理解を深める		
6) Decent-work とSDGs (30min.)			働きがいのある仕事と生活環境の理解		
7) 意思決定と消費行動 (消費とSDGs(Sustainable Development Goals)を考える)			温暖化との関連から消費行動を考える。		
8) 消費経済のしくみと構造(45min.)			消費の構造を考える p36～p41(2回)		
9) ライフステージと生活設計(15min.)			将来設計を考える (レジユメをまとめる)		
10) 自助・互助・共助・公助と生活設計；社会保障・保険(15min.)			関連を考える (レジユメ用語をまとめる)		
11) 生活と契約・消費者情報(45min.)			契約について理解を深める (レジユメをまとめる)		
12) キャッシュレス社会(15min.)			キャッシュレスの意図を考える(30min.)		
13) 住生活の衣食住のベーシックスキル(90min.)			基盤となる住生活を考える (p130～p151, 2回)		
14) 衣生活衣食住のベーシックスキル(90min.)			基盤となる衣服生活を考える (p100～p127, 2回)		
15) 暮らしの防災・安全 (講義) (30min.)			災害過多の今,多方面から捉える (p152～p161, 2回)		
[使用テキスト] ●福祉のための家政学, 建帛社, 新介護福祉士養成講座2, 中央法規					
[参考文献] ●家族生活の支援—理論と実践—, 建帛社, 人と生活, 建帛社, ライフスタイルの社会学, 東大出版会					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (25%)		講義中の意見交換, 課題の解答 etc.			
②到達度の確認 (—%)		各章, 節の確認, 課題の確認 etc.			
③実技・作品発表 (—%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (60%)		全体の評価			
②レポート (10%)		全体の評価			
③実技試験 (—%)					
④面接試験 (5%)		質問等			
平常点評価		<input type="checkbox"/> 質問に対する回答, 準備学修状況 etc を学修成果の評価に加味する。 <input type="checkbox"/> レジユメ等へのメモ (書き取り) を評価に加味する。			
[フィードバックの方法] 講義時に解説し, レジユメを参考に各自でまとめることで内容を細めに確認することができる。特に, <知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度> の修得に貢献する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められている

120241

授業のタイトル (科目名) 介護現場における コミュニケーション技術		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 深田 仁志	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		地方自治体の福祉行政におけるソーシャルワーカー等の実践経験を体系的に伝えたい。			
[授業の目的・ねらい] 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ①本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。 ②家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。 ③障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。 ④情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護現場におけるコミュニケーションに関する知識と技術を習得し、実際の場面で活用できる能力を身に付ける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1)・2) 介護におけるコミュニケーションの基本 (その1・2) ～介護におけるコミュニケーション、援助関係とコミュニケーション (バイステックの7原則を含む) など			テキスト「コミュニケーション技術(第2版)」 第1章 (p1～p21) (各講義前予習 30分)		
3)～5) コミュニケーションの基本技術 (その1～3) ～コミュニケーション態度 (傾聴、受容、共感)、言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本、目的別のコミュニケーション技術 (動機づけ、意思決定支援)、集団におけるコミュニケーション技術など			テキスト「コミュニケーション技術(第2版)」 第2章 (p22～p71) (各講義前予習 30分)		
6)～8) 対象者の特性に応じたコミュニケーション (その1～3) ～コミュニケーション障害への対応の基本、さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援など			テキスト「コミュニケーション技術(第2版)」 第3章 (p73～p166) (各講義前予習 30分)		
9)・10) 家族とのコミュニケーション (その1・2) ～家族との関係づくり、家族への助言・指導・調整、家族関係と介護ストレスへの対応など			テキスト「コミュニケーション技術(第2版)」 第4章 (p167～p189) (各講義前予習 30分)		
11)～14) 介護におけるチームのコミュニケーション (その1～4) ～チームのコミュニケーション、報告・連絡・相談の技術、記録の技術 (意義・目的・種類・方法と書き方・実際)、会議・議事進行・説明の技術、事例検討に関する技術、情報の活用と管理のための技術など			テキスト「コミュニケーション技術(第2版)」 第5章 (p191～p257) (各講義前予習 30分)		
15) 総まとめ【テキスト、レジュメ及び資料等の確認】			テキスト「コミュニケーション技術(第2版)」 配布済みのレジュメ及び資料の確認 (講義前予習 30分)		
[使用テキスト] ○介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術(第2版)」中央法規出版 ※テキストの内容を補完するために講義ごとにレジュメ(資料を含む)を配布する。					
[参考文献] ○中央法規出版編集部「介護福祉用語辞典 七訂」(2015)中央法規出版					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(30%)	試験形式にこだわらず、授業での発表内容等を含めた学習到達度を評価する。 また、随時過去問等を用いて理解度の確認を行う予定である。
②実技・作品発表()%	
【定期試験】	
①筆記試験(70%)	学期末に筆記試験を行う。
②レポート()%	
③実技試験()%	
④面接試験()%	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「平常点評価」としては、授業中の受講態度(積極的な発言)などを評価する。 【詳しくは授業にて説明する】 <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
筆記試験について、解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。また、必要に応じて個別に説明する。	
[備考]	
講師の都合により、前年度に引き続き本年度についても月1、2回、各2コマから4コマ程度集中して授業を行う。 開講予定日(○数字が開講回を示す)：改めて提示する。 最終講義(第15回目)には、配布したレジュメ及び資料等を持参すること。【定期テスト対策を併せて実施する予定】	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

500221

授業のタイトル (科目名) 視覚障がい者とのコミュニケーション		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 伊藤 聡	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3	セメスター	資格必修	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	ライトハウスライブラリーの職員として経験を活かし、視覚障害者支援の知識や方法を講義する。				
[授業の目的・ねらい] 学生が視覚障害者の特性・多様性を理解し、介護の現場で最低限必要な知識を持ち、基本的かつ適切な対応が出来るようになること。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ①視覚障害の特性・多様性の理解のため、基礎的な講義と体験を実施する。②介護現場での対応に必要な基礎的な技術取得のための実技実習(視覚障害者の手引き)を行う。③視覚障害に関する制度や情報、目の不自由さを補う用具などに関する講義を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①学生が基本的な情報支援(代筆代読)や移動介助(視覚障害者の手引き)ができる。 ②関係する基本的な制度の存在を視覚障害者に説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 視覚障害当事者による講和及び意見交換及び視覚障害者情報提供施設の見学・補装具及び日常生活用具の体験(学外授業)			特になし		
2) 視覚障害当事者による講和及び意見交換及び視覚障害者情報提供施設の見学・補装具及び日常生活用具の体験(学外授業)			特になし		
3) 視覚障害及び関連領域の基礎知識1(講義・体験)			テキストP10を確認する。ICIDH, ICFについて確認をしておく。(20分)		
4) 視覚障害及び関連領域の基礎知識2(講義・体験)			テキストP21(1)~(2)「見えの構造」をよく読んでおく。前回の講義の復習をする(30分)		
5) 視覚障害及び関連領域の基礎知識3(講義・体験)			テキストP22~P27を読み、記載されている眼疾患から生活面でどのようなことが困りそうかを予想する(30分)		
6) 移動介助(視覚障害者の手引き)技術1(実技)			テキストP107~P132をざっと読んでおく。(30分)		
7) 移動介助(視覚障害者の手引き)技術2(実技)			前回の手引きの内容とプリント「手引きの5つの基本」を確認し復習しておく(20分)		
8) 代筆代読の基本技能/視覚障害に関わる各種制度			テキストP63~67 同行援護従業者の業務について確認しておく(30分)		
[使用テキスト] 同行援護従業者養成研修テキスト編集委員会編、『新版 同行援護従業者養成研修テキスト』,2025年2月20日発行,出版社:中央法規					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(10%)					
②実技・作品発表(10%)					
【定期試験】					
①筆記試験(80%)					
②レポート(%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

520232

授業のタイトル (科目名) 聴覚障がい者とのコミュニケーション		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 大瀧 浩司、三宅 映子	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3	セメスター	資格必修	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	手話通訳者等の養成を活かし施設でのコミュニケーション力を育てる				
[授業の目的・ねらい] 聴覚障害についての理解を深め、コミュニケーション技術を身につける					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 聴覚障害等についての講義で耳が聞こえない、聞こえにくい人に対する理解をし、多様なコミュニケーションの技術を学ぶ					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 耳が聞こえない、聞こえにくい人達との日常会話を積極的に工夫し、障害者に対する支援ができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) (講義) 聴覚障がいとは (実技) あいさつ			「手話で話しましょう」P1 「はじめて出会う手話」P30		
2) (実技) 自己紹介 (実技) 家族			「はじめて出会う手話」P44 「はじめて出会う手話」P59		
3) (講義) コミュニケーションの方法 (実技) 趣味、料理・買い物			「手話で話しましょう」P2 「はじめて出会う手話」P72、P86		
4) (実技) 病院 (実技) 交通			「はじめて出会う手話」P100 「はじめて出会う手話」P114		
5) (講義) 聴覚障がい者の暮らし (実技) 学校、仕事			「手話で話しましょう」P4 「はじめて出会う手話」P128、P142		
6) (実技) 天気・自然			「はじめて出会う手話」P156		
7) (講義) 高齢者施設について (ろうあ高齢者の生活) (実技) コミュニケーション (伝えあう工夫)			パワーポイント		
8) (実技) コミュニケーション実践 (施設での会話)					
[使用テキスト] DVDで楽しく学べるはじめて出会う手話 (全日本ろうあ連盟)					
[参考文献] 私たちの手話学習辞典 I・II (全日本ろうあ連盟)					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (%)	
②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
① 筆記試験 (40%)	講義の内容についての理解
② レポート (%)	
③ 実技試験 (40%)	手話の読み取り
④ 面接試験 (20%)	個別面接
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
テキストで学んだ内容を確認する。DVDの視聴。	
[備考]	
手話単語の復習を自宅でも行う。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

520233

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 尾崎 理恵	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
□ 実務経験		高齢者施設職員としての経験を活かし、生活支援技術について講義する。			
[授業の目的・ねらい] 1. 生命の尊さ、人としての自尊心を価値とし、個性やその人の独自性を理解することができる。2. 地域での生活者として「その人らしい生活」の継続を可能にするための環境を再構築し、人を「人」として見、その人の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう支援するための知識・技術を習得する。3. 利用者の状況をアセスメントし、根拠に基づいた支援方法を考え実践することができる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 生活の理解 アセスメント、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた移動・移乗の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた入浴・清潔の介護、以上を取り扱う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 自分の生活行動を理解し、説明することができる。 2. その人の個性、独自性がある事を理解し、自分との違いを説明することができる。 3. 自分との違いを理解し、それぞれの支援の方法を考え、説明することができる。 4. 生活にかかわる居住環境の整備、移動動作、入浴・清潔の場面での介護について理解し実行することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業概要の説明・介護実習室使用時の注意事項 生活の理解 (自分の生活について考える) ・生活支援の理解 (講義)			「生活」とは何か考える テキスト生活支援技術 I p 2~7 を読む		
2) 生活支援と介護過程 (ICF の視点で利用者を見る) 講義			「ICF」について、テキスト p 12~14 を読む		
3) 自立に向けた移動・移乗の介護①: 車いす移乗 (演習)			車いすの名称を覚える		
4) 自立に向けた移動・移乗の介護②: 車いす操作・移動 (演習)			生活支援技術 I テキスト p 136~140 を読む		
5) 自立に向けた居住環境の整備について (講義)			自分の居住環境 (家) について考える		
6) ベッドメイキングについて① (講義・演習)			テキスト生活支援技術 II p 227~240 を読む		
7) ベッドメイキングについて② (演習)			ベッドメイキングレポート		
8) ベッドメイキングについて③ (演習)			〃		
9) 自立に向けた移動・移乗の介護③: 歩行の介護について (講義)			生活支援技術 I テキスト p 175~176 を読む		
10) 自立に向けた移動・移乗の介護④: 歩行の介護 (杖歩行) (演習)			生活支援技術 I テキスト p 177~183 を読む		
11) 身体の各部位の名称・主な姿勢・ボディメカニクスについて (講義)			作成テキスト表紙カラー資料「主な姿勢」「ボディメカニクスの応用」を確認する		
12) 身体の各部位の名称・主な姿勢・ボディメカニクスについて (演習)			〃		
13) 自立に向けた移動・移乗の介護⑤: 移動・移乗の意義・目的・アセスメントの視点・環境整備・福祉用具について (講義)			生活支援技術 I テキスト p 82~86 を読む		
14) 自立に向けた移動・移乗の介護⑥: 起居動作・体位変換 (①仰臥位→側臥位→端坐位) (演習)			自分の普段の起き上がりの動作、側臥位の動作を確認する。		
15) 自立に向けた移動・移乗の介護⑦: 体位変換 (麻痺がある場合) (①仰臥位→側臥位→端坐位) (演習)			体位変換の演習の復習		
16) 自立に向けた移動・移乗の介護⑧: 安定した座位について、車いすについて (講義)			生活支援技術 I テキスト p 131~132 を読む		
17) 自立に向けた入浴・清潔の介護①: 入浴・清潔の意義と目的、観察とアセスメント (講義)			今までの講義・演習の復習 (配布資料の確認)		
18) 自立に向けた入浴・清潔の介護②: バイタルサイン測定 (演習) 入浴介助の方法について (講義)			生活支援技術 II テキスト p 108~109 を読む		
19) 自立に向けた入浴・清潔の介護③: 入浴の介護について (演習)			前回の資料と生活支援技術 II テキスト p 111~122 を読んで、演習の手順の確認		
20) 自立に向けた入浴・清潔の介護④: 入浴の介護 (演習)			〃		
21) 自立に向けた入浴・清潔の介護⑤: 手浴・足浴の介護 (演習)			生活支援技術 II テキスト p 135~140 を読む		
22) 自立に向けた入浴・清潔の介護⑥: 全身清拭の介護 (演習)			生活支援技術 II テキスト p 124~132 を読む		

23) 授業の振り返り：事例演習	今までの授業配布資料の確認
24) 授業の振り返り：事例演習	今までの授業配布資料の確認
25) 実技発表	実技試験に向けた演習
26) 実技発表	実技試験に向けた演習
27) 実技発表	実技試験に向けた演習
28) 実技発表・評価	自己評価
29) 授業の総復習（講義）	
30) 到達度の確認（筆記・まとめ）	
[使用テキスト] 中央法規『最新介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ』『最新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ』	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認（10%）	
② 実技・作品発表（0%）	
【定期試験】	
① 筆記試験（60%）	
② レポート（%）	
③ 実技試験（30%）	
④ 面接試験（%）	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実技については、実技発表後に個別に評価を行い、全体での振り返りを行う。筆記の確認については、解答（ポイント）を個別に返却する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

300212

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 尾崎 理恵	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		卒業必修・資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 生命の尊さ、人としての自尊心を価値とし、個別性やその人の独自性を理解することができる。2. 地域での生活者として「その人らしい生活」の継続を可能にするための環境を再構築し、人を「人」として見、その人の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう支援するための知識・技術を習得する。3. 利用者の状況をアセスメントし、根拠に基づいた支援方法を考え実践することができる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 自立に向けた身じたく、食事、排せつの介護、休息睡眠の介護、人生における最終段階の介護、緊急時、災害時における介護福祉の役割、以上を取り扱う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
4. 自分の生活行動を理解し、説明することができる。 5. その人の個別性、独自性がある事を理解し、自分との違いを説明することができる。 6. 自分との違いを理解し、それぞれの支援の方法を考え、説明することができる。 7. 生活にかかわる身じたく、食事、排せつの介護、安楽な体位について理解し実行することができる。 8. 人生の最終段階における身体的変化や家族支援について理解できる。 9. 応急手当、災害時における介護の役割について理解し説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要の説明 自立に向けた身じたくの介護：身じたくの意義と目的、衣服の着脱について (講義)			生活支援技術Ⅱテキスト p2～5 を読む。 (30分)		
2) 自立に向けた身じたくの介護；座位での衣服の着脱 (演習)			生活支援技術Ⅱテキスト p 51～59 を読む (30分)		
3) 自立に向けた身じたくの介護：麻痺がある場合の衣服の着脱 (演習)			演習の復習 (1時間)		
4) 自立に向けた食事の介護：食事の意義と目的、食事の介護について (講義)			生活支援技術Ⅱテキスト p 74～78 を読む。 (30分)		
5) 自立に向けた食事の介護：嚥下機能が低下した人への食事の介護、食事の姿勢 (演習)			生活支援技術Ⅱテキスト p 84～87 を読む。 (30分)		
6) 自立に向けた食事の介護：誤嚥の予防について (講義・演習) 他職種連携について (講義)			生活支援技術Ⅱテキスト p 95～97 を読む。 (30分)		
7) 自立に向けた排泄の介護：自立した排泄について、排泄の介護について (講義)			生活支援技術Ⅱテキスト p 162～165 を読む。 (30分)		
8) 自立に向けた排泄の介護：ポータブルトイレでの排泄の介護 (演習)			生活支援技術Ⅱテキスト p 174～178 を読む (30分)。		
9) 自立に向けた排泄の介護：おむつでの排泄の介護 (講義・演習)			生活支援技術Ⅱテキスト p 191～195 を読む。 (30分)		
10) 自立に向けた排泄の介護：おむつでの排泄の介護 (演習)			生活支援技術Ⅱテキスト p 191～195 を読む。 (30分)		
11) 自立に向けた排泄の介護：尿器・差し込み便器での排泄介護 (演習)			生活支援技術Ⅱテキスト p 185 を読む (30分)		
12) 事例演習：身じたく・食事・排泄の介護の復習			生活支援技術Ⅱテキスト p 52～59 を読む。 (30分)		
13) 休息・睡眠の介護：睡眠のメカニズム、睡眠障害について (講義)			生活支援技術Ⅱテキスト p 220～223 を読む。 (30分)		
14) 休息・睡眠の介護：安楽な体位について (演習)			前回の配布資料の確認 (30分)		
15) 人生の最終段階における介護：人生の最終段階の意義と介護の役割について (講義)			生活支援技術Ⅱテキスト p 256～260 を読む。 (30分)		
16) 人生の最終段階における介護：死を迎える人の介護と家族への支援について (講義)			生活支援技術Ⅱテキスト p 269～277 を読む。 (30分)		

17) 人生の最終段階における介護:身体症状の観察(バイタルサイン測定) (演習)	自分の脈拍を測る。(30分)
18) 事例演習: 休息・睡眠・人生の最終段階における介護の復習	今までの配布資料の確認(30分)
19) 応急手当の知識と技術について(講義)	生活支援技術Iテキストp266~271を読む。 (30分)
20) 応急手当の知識と技術について:救急車の手配について(講義・演習)	応急手当について調べる(1時間)
21) 災害時における生活支援について(講義)	生活支援技術Iテキストp280~285を読む。 (30分)
22) 災害時における生活支援について:ハザードマップ調べ(演習)	自分の住んでいる地域のハザードマップを調べる(1時間)
23) 事例演習: 応急手当、災害時の生活支援について	今までの配布資料の確認(1時間)
24) 実技発表についての説明と演習	実技試験に向けた演習(1時間)
25) 実技発表	実技試験に向けた演習(1時間)
26) 実技発表	実技試験に向けた演習(1時間)
27) 実技発表	実技試験に向けた演習(1時間)
28) 実技発表・評価	実技試験に向けた演習(1時間)
29) 授業の総復習(講義)	今までの配布資料の確認(1時間)
30) 到達度の確認(筆記・まとめ)	今までの配布資料の確認(1時間)
[使用テキスト] 中央法規『最新介護福祉士養成講座6生活支援技術I』『最新介護福祉士養成講座7生活支援技術II』	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(10%)	
②実技・作品発表(0%)	
【定期試験】	
①筆記試験(60%)	
②レポート(%)	
③実技試験(30%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

300222

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 野津暁彦、上山小百合	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1、介護を行う上でかかわることが多い障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解し、利用者それぞれが生活のなかでどのような困難を抱えているのかをみきわめる。そして、なぜそのような介護をおこなうのか、どのような点に留意しなければならないのかという根拠に基づいた支援を考え、実践できるための生活支援技術方法を身につける。 2. 在宅における介護(身体介護・生活支援)において、利用者の自宅での生活状況に合わせた身体介護および家事支援の方法について学ぶ。 3. 人生の最終段階における多職種連携について理解し、支援やケアの方法を身につける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] テキストを中心に、適宜補足資料、事例を用いながら、目的・ねらいに沿って講義を行う。事例を基として、その人らしい生活を送る上でそれぞれの支援方法を見出し、演習として実践する。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1、障害や疾病について理解し、介護するうえでの根拠とすることができる。 2、介護過程の中で観察する視点や障害に応じた生活支援技術を身につけることができる。 3、障害や疾病のある利用者各々の生活上の困難さを把握し、その人らしい生活のための支援方法を考え実践できる。 4、在宅ケアについて理解し、利用者の生活様式に合わせた生活支援のあり方を理解できる。 5、終末期ケア(エンゼルケア)について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション・障害者の生活支援の基本(講義)			障害について復習する(1時間)		
2) 肢体不自由に応じた介護: 肢体不自由の医学的理解・心理的理解(講義)			"		
3) 肢体不自由に応じた介護: 麻痺の疑似体験と移動の介護(1)(演習) ベッドからの起き上がり			片麻痺疑似体験セットを使用し片麻痺を疑似体験する		
4) 肢体不自由に応じた介護: 麻痺の疑似体験と移動の介護(2)(演習) ベッドからの起き上がり			"		
5) 肢体不自由に応じた介護: 移乗の介護(3)(演習) 車いす移乗			ベッドからの起き上がりの復習(1時間)		
6) 肢体不自由に応じた介護: 移乗の介護(4)(演習) 車いす移乗			"		
7) 肢体不自由に応じた介護: 移動の介護(事例演習)			車いす移乗の復習(1時間)		
8) 肢体不自由に応じた介護: 移動の介護(事例演習)			"		
9) 知的障害に応じた介護: 知的障害の理解・観察の視点・支援の展開(講義)			テキスト p 190~195 を読む(1時間)		
10) 知的障害に応じた介護: (事例演習)			テキスト p 196 事例演習を読む(1時間)		
11) 精神障害に応じた介護: 精神障害の理解・観察の視点・支援の展開(講義)			テキスト p 198~205 読む。(1時間)		
12) 精神障害に応じた介護: (事例演習)			テキスト p 206 事例演習を読む(1時間)		
13) 発達障害に応じた介護: 発達障害の理解・観察の視点・支援の展開(講義)			テキスト p 232~237 を読む(1時間)		
14) 高次脳機能障害に応じた介護: 高次脳機能障害の理解・観察の視点・支援の展開(講義)			テキスト p 219~222 を読む(1時間)		
15) 高次脳機能障害に応じた介護: 事例演習(失認・失行のある利用者への支援)			テキスト p 222~228 を読む。(1時間)		
16) 難病に応じた介護: 難病の理解(疾患とその特徴)			難病について復習してくる(1時間)		
17) 難病(ALS)に応じた介護: *映像使用			テキスト p 249~258 を読む(1時間)		
18) 難病に応じた介護: *映像使用・福祉用具について			福祉用具についての復習(1時間)		
19) 難病に応じた介護: 環境整備*利用者が臥床した状態でのベッドメイキング(演習)			ベッド上で臥床した状態でのベッドメイキングの復習(1時間)		
20) 難病に応じた介護: ベッド上での着脱(全介助)(演習)			"		
21) 難病に応じた介護: ベッド上での着脱(全介助)(演習)			ベッド上での着脱の復習(1時間)		
22) 難病に応じた介護: ベッド上での着脱(全介助)(演習)			"		
23) 人生の最終段階における介護: 終末期ケアについて理解する(講義)			生活支援技術Ⅱテキスト p 250~254 を読む(1		

	時間)
24) 人生の最終段階における介護：エンゼルケア（演習）	”
25) 災害時における生活支援（講義）	生活支援技術Ⅰテキスト p 276～300 を読む（1時間）
26) 実技演習	ベッド上に臥床した状態での着脱の復習（1時間）
27) 実技演習	”
28) まとめ（実技試験）	実技演習（1時間）
29) まとめ（実技試験）	”
30) 実技試験後のまとめ	全授業の資料の確認（1時間）
[使用テキスト]	
最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規	
最新介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」中央法規	
最新介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」中央法規	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ %）	
②実技・作品発表（ 50%）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 50%）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実技試験後に学生個別に評価内容を伝えます。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

320234

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅳ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 野津暁彦、上山小百合	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1、介護を行う上でかかわることが多い障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解し、利用者それぞれが生活のなかでどのような困難を抱えているのかをみきわめる。そして、なぜそのような介護をおこなうのか、どのような点に留意しなければならないのかという根拠に基づいた支援を考え、実践できるための生活支援技術方法を身につける。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] テキストを中心に、適宜補足資料、事例を用いながら、目的・ねらいに沿って講義を行う。事例を基として、その人らしい生活を送る上でのそれぞれの支援方法を見出し、演習として実践する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 4、障害や疾病について理解し、介護するうえでの根拠とすることができる。 5、介護過程の中で観察する視点や障害に応じた生活支援技術を身につけることができる。 6、障害や疾病のある利用者各々の生活上の困難さを把握し、その人らしい生活のための支援方法を考え実践できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション、在宅での介護：身体介護と生活支援について (講義)			テキスト p 216～218 を読む。(30 分)		
2) 在宅での介護：身体介護の方法 (講義・演習)			在宅での身体介護について調べる(1 時間)		
3) 在宅での介護：家事の介護 (講義)			テキスト p 223～228 を読む。(1 時間)		
4) 在宅での介護：家事の介護 (事例演習) * 掃除・ゴミ出しについて			自分の地域のごみ出しのルールについて調べる。(1 時間)		
5) 在宅での介護：家事の介護 (事例演習) * 洗濯について			テキスト p 228～243 を読む(1 時間)		
6) 在宅での介護：家事の介護 (事例演習) * 買い物・調理について			テキスト p 244～249 を読む(1 時間)		
7) 福祉用具の活用方法と選定方法 (見学・体験)			生活支援技術Ⅰテキスト p 194～208 を読み復習する(1 時間)		
8) 福祉用具の活用方法と選定方法 (事例演習)			〃		
9) 視覚障害に応じた介護：視覚障害の理解 (先天性・中途障害)・観察の視点 (講義)			テキスト p 31～36 を読み、視覚のしくみについて復習する(1 時間)		
10) 視覚障害に応じた介護：食事の支援 (クロックポジションその他) 演習			〃		
11) 聴覚・言語障害に応じた介護：聴覚障害・言語障害の理解・観察の視点 (講義)			テキスト p 46～51 を読み、聴覚のしくみについて復習する(1 時間)		
12) 聴覚・言語障害に応じた介護：事例演習*コミュニケーションの工夫について考える (演習)			〃		
13) 心臓機能障害に応じた介護：心臓機能障害の理解 (心臓のしくみ・疾患について) (講義)			テキスト p 75～88 を読み、心臓のしくみについて復習する(1 時間)		
14) 心臓機能障害に応じた介護：観察の視点・日常生活の留意点 (講義)			〃		
15) 呼吸器機能障害に応じた介護：呼吸器機能障害の理解・呼吸リハビリテーション (講義)			テキスト p 91～100 を読んで、呼吸器のしくみについて復習する(1 時間)		
16) 呼吸器機能障害に応じた介護：観察の視点・日常生活の留意点 (講義)			〃		
17) 心臓機能障害・呼吸器機能障害に応じた介護：安楽な体位の工夫 (演習)			テキスト p 100～105 を読む(1 時間)		
18) 心臓機能障害・呼吸器機能障害に応じた介護：安楽な体位の工夫 (演習)			〃		
19) 腎臓機能障害に応じた介護：医学的・心理的理解・観察の視点 (講義) 日常生活の留意点 (食事療法・透析療法)			テキスト p 108～116 を読み、腎臓のしくみについて復習する。(1 時間)		
20) 腎臓機能障害に応じた介護：事例演習*食事療法の必要な人の献立を考える (演習)			〃		
21) 腎臓機能障害に応じた介護：事例演習*発表			テキスト p 119 の事例を読む(1 時間)		
22) 膀胱・直腸機能障害に応じた介護：医学的・心理的理解・観察の視点 日常生活の留意点 (講義)			テキスト p 121～131 を読んで、膀胱や腸について復習する。(1 時間)		
23) 膀胱・直腸機能障害に応じた介護：ストーマケア (演習)			テキスト p 124～126 を読む(1 時間)		

24) 膀胱・直腸機能障害に応じた介護： ストーマケア（演習）	〃
25) 生活支援技術Ⅲの実技の振り返り（実技演習）（1）	肢体不自由の支援の資料の復習（1時間）
26) 生活支援技術Ⅲの実技の振り返り（実技演習）（2）	〃
27) まとめ（実技評価）	実技演習（1時間）
28) まとめ（実技評価）	実技演習（1時間）
29) 実技評価後のまとめ	実技演習（1時間）
30) 総まとめ（筆記試験に向けて）	今までの資料を確認する（1時間）
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規 最新介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」中央法規 最新介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」中央法規	
[参考文献] 「最新・介護福祉士養成講座 第11巻 こころとからだのしくみ」 「最新・介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解」	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ %）	
②実技・作品発表（ 50%）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 50%）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実技評価後個別に評価を行い、実技試験後に個別に伝える。 筆記試験後に正答のポイントを開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

320242

授業のタイトル (科目名) 生活環境の整備		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 奈良井 謙	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター	卒業必修・資格必修		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	高齢福祉、障害福祉職務経験を活かし、生活環境について講義する				
[授業の目的・ねらい] 住環境整備の意義を理解する。高齢者、障がい者の自立にむけた整備の考え方と方法を理解する					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 生活の基盤である「住まい」への理解を深め、広い視野で支援できるような専門職としての基本的な知識を身につける					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 援助すべきニーズを発見して、住環境整備から改善する提案、理解ができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 住環境整備の意義と目的① 講義			福祉住環境コーディネーターについて調べる (30分)		
2) 住環境整備の意義と目的② 講義					
3) 健康と自立 講義			テキストを読んでおく (30分)		
4) 健康と自立 講義					
5) バリアフリーとユニバーサルデザイン 講義			バリアフリーについて調べる (30分)		
6) バリアフリーとユニバーサルデザイン フィールドワーク					
7) 安心で快適な生活の場づくり (玄関、廊下、階段) 講義			テキストを読んでおく (20分)		
8) 安心で快適な生活の場づくり (浴室、洗面、トイレ) 講義			テキストを読んでおく (20分)		
9) 安心で快適な生活の場づくり (台所、寝室) 講義			テキストを読んでおく (20分)		
10) 安全に暮らすための生活環境 講義			テキストを読んでおく (20分)		
11) 住環境の整備における他職種との連携			テキストを読んでおく (20分)		
12) 住環境整備の実際 事例紹介					
13) 住宅改修、施設見学					
14) 住宅改修、施設見学					
15) まとめ			配布した資料の振り返りをする (30分)		
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (30%)	授業中のレポート提出により評価する				
② 実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
① 筆記試験 (70%)	試験の点数により評価する				
② レポート (%)					
③ 実技試験 (%)					
④ 面接試験 (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法]					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

100233

授業のタイトル (科目名) 栄養・調理の方法		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 土江 由美	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3	セメスター	卒業必修・資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 食事の意義と目的を理解し 介護福祉士が行う食の支援について根拠や目的が説明できるようにする。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 限られた時間の中で、いつもの(身近な)材料から色々な料理を作るポイントなどを調理実習、講義を通して学ぶ。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] (理解) 食材の旬、特性と栄養素の働きが理解できる。バランスの良い食事の組み合わせができる。 (技術) 基本的な調理操作ができる。段取りを考え効率よく安全に調理することができる。高齢者の身体状態に合わせた調理の工夫ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学習の内容]		
1) ・食の大切さを実感しつつ、食のもつ役割、高齢者にとって食べることの意味を考える。 ・介護福祉士が食に関わる意味を考える。 ・家事(調理)支援のための過程を理解しまとめる。 ・食品衛生の基礎・食品の購入と選択・食品の保存。 ・日本の食文化について知る ・主な食材			テキスト P220～221 をよく読んで予習しておく テキスト P227～229 をよく読んで予習しておく		
2) ・実習オリエンテーション。実習の概要、進め方、諸注意。					
3) 調理実習 調理の手順の確認。身じたく(チェック)、用具、教材の準備。 計る、洗う、切る、加熱する、味をつける、配膳、試食、後片付け。 振り返る(チェック)を中心に実習する。			配布したプリントに目を通しておく テキスト P231 に目を通しておく (20分)		
4) 調理実習・調理の基本 ・ご飯を炊く ・野菜の切り方 ・主のだしのとり方 ・みそ汁を作る					
5) 調理実習・調理の基本 ・調理操作について説明し、実習を行う。 ゆでる、煮る、和える調理を実習。 ・主な調味料について			配布したプリントに目を通しておく (10分)		
6) 調理実習					
7) 調理実習・調理の基本 ・調理操作について説明し、実習を行う。 ・焼く、炒める、和える					
8) 調理実習					
9) 調理実習 手軽な調理のひとつとして缶詰や冷凍食品、レトルト食品等を利用した調理の実習をする。 電子レンジを利用した調理			缶詰や冷凍食品を使った料理を考え、ノートにまとめる (30分)		
10) 調理実習					
11) 調理実習 食材の特性について説明し、高齢者の身体機能に配慮した調理の工夫ができるよう実習する。 ・咀嚼 ・飲み込みやすい調理の工夫			高齢者の食べる機能の変化についてノートにまとめる (30分)		

12) ・おかゆの炊き方・野菜の切り方・下ごしらえ	
13) 調理実習 季節を感じる食事の実習。 日本の食文化、行事と行事食。 野菜や魚の旬等、これら食知識をもっておいしく食べる、楽しく食べる食事の演習ができる。	日本の食文化・行事食について調べ、ノートにまとめる (30分) 旬の食材 (春、夏、秋、冬) とその特徴を調べ、ノートにまとめる (20分)
14) 調理実習 調理実習 ・和食の基本的な配膳 ・食事のマナー	
15) 講義・演習 食べ物と健康の関係性を理解する。 自身の健康的な食生活、生活習慣について食事の自己評価を演習する。 演習を通じて必要な栄養をバランスよくとる方法を身につける。 まとめ・小テスト	
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術I」(中央法規出版)	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (50%)	授業内に講義のまとめ、ノート提出および小テストによって確認・評価を行う
② 実技・作品発表 (50%)	実習態度、身じたく、基本的な調理操作ができる。きれいに盛り付けができる。
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 小テストについて、正答を講義修了後に解説しフィードバックを行う	
[備考] 日常生活の中で「食」を意識して、授業にのぞんで下さい。 <u>エプロン、三角巾、マスクを忘れないこと。</u>	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120235

授業のタイトル (科目名) 介護過程の基本		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 知佐	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1	セメスター	卒業必修・資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 介護過程における思考過程を理解することができる。 2. ニーズ抽出の考え方と方法を身に付けることができる。 3. ニーズを導き出した根拠を分かりやすく説明することができる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] レジュメ及び資料をもとに理論について講義する。その後、事例を用いた個人ワークにて、実際にニーズを抽出しその根拠を文章化してみる。個人ワークの結果をプレゼンテーションし、クラスでディスカッションする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ニーズを特定した根拠について分かりやすく説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 介護過程を学ぶ意義			テキスト p 2-9 を読む (30m)		
2) 介護福祉と介護過程の関係			レジュメ集 2-9 p を読む (30m)		
3) 介護過程の構成要素			テキスト p 9-22 を読む (1h)		
4) 介護の目標			レジュメ集該当ページを読んでおくこと		
5) 人間のニーズとディマンド			レジュメ集該当ページを読んでおくこと		
6) 人間の基本的ニーズ			レジュメ集該当ページを読んでおくこと		
7) 介護過程におけるアセスメント① (アセスメントとは何か)			レジュメ集該当ページを読んでおくこと		
8) 介護過程におけるアセスメント② (情報の種類と情報収集)			レジュメ集該当ページを読んでおくこと		
9) 介護過程におけるアセスメント③ (情報の分析と関連性)			レジュメ集該当ページを読んでおくこと		
10) 介護過程におけるアセスメント④ (情報の判断)			レジュメ集該当ページを読んでおくこと		
11) 介護過程におけるアセスメントの実際① (事例演習: 情報分析→情報の関連性を捉える): 個人ワーク			「介護記録の書き方」アセスメントシートを確認しておくこと		
12) 介護過程におけるアセスメントの実際② (事例演習: 関連図の発表): プレゼン・ディスカッション			「介護記録の書き方」アセスメントシートを確認しておくこと		
13) 介護過程におけるアセスメントの実際③ (事例演習: ニーズの特定): 個人ワーク			レジュメ集該当ページを読んでおくこと		
14) 介護過程におけるアセスメントの実際④ (事例演習: ニーズの根拠を言語化する): 個人ワーク			「介護記録の書き方」アセスメントシートを確認しておくこと		
15) 介護過程におけるアセスメント (事例を用いたアセスメント結果の発表): プレゼンテーション			プレゼンテーションの練習をしておくこと		
[使用テキスト] ①堅田知佐 (2025) 「2025 年度版『介護過程の基本』レジュメ集」 ②介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 9 介護過程第 2 版」中央法規出版					
[参考文献] ①堅田知佐 (2025) 「介護過程の基本 レジュメ集 2025 年度版」 ②大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科 (2025) 「2025 年度版介護実習の手引き」 ③堅田知佐 (2025) 「介護記録の考え方と書き方」					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (20%)		授業内で提示したレポートや演習結果を評価する			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (80%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					

平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

200213

授業のタイトル (科目名) 介護過程の展開 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田知佐、金弦敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2	セメスター	資格必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 利用者個々のニーズを特定し、介護の目標を設定することができる。 2. 介護過程の展開に必要な記録力を身に付けることができる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 第1セメスターで学んだ介護過程の理論を踏まえ展開実習 A までに、事例を用いてニーズ及び介護目標の根拠を説明することができる。 展開実習 A で受け持たせていただいた利用者のアセスメント結果をクラスでディスカッションする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 対象者の個別ニーズに基づいて介護過程を展開するための実践力が身に付く。 2. 根拠に基づくニーズ及び介護目標の設定ができ、皆が納得できるように説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 介護過程の理論 (復習)			テキスト、「介護過程の展開 I」レジュメ集 該当ページを読んでおくこと (30m)		
2) 情報収集の理論と方法① (アセスメントシートの種類と構造)			テキスト「介護記録の考え方と書き方」該当 ページをみておくこと (1h)		
3) 情報収集の理論と方法② (アセスメントシートの考え方と書き方)					
4) 情報収集の理論と方法③ (事例の読み込みと情報解釈)					
5) 情報収集の理論と方法④ (アセスメントシートへの情報の記入) : 個人ワーク			テキスト第2章、「介護過程の展開 I」レジュメ集 該当ページを読んでおくこと (1h)		
6・7) 情報分析の理論と方法① (情報の関連性と全体像の明確化) : 個人ワーク			事前に配布する資料を読み、不明点をあげて おく (1h)		
8) 情報分析の理論と方法② (情報の関連性と全体像の把握から見える「気づき」の視点)					
9) 情報分析の理論と方法③ (ニーズの特定及びニーズ根拠の文章化) : 個人ワーク					
10) 情報分析の理論と方法④ (アセスメント結果の発表) : プレゼンテーション・ディスカッション			プレゼンテーションの準備をしておく (2h)		
11) 情報分析の実際① (展開実習 A 担当利用者アセスメント結果の発表) : プレゼンテーション			展開実習 A 担当利用者のアセスメント結果を確認し、 不足している情報を明確にしておく (2h)		
12) 情報分析の実際② (展開実習 A 担当利用者アセスメント結果のディスカッション)					
13) 介護目標設定の考え方と視点					
14) 介護目標設定のためのアセスメント① (展開実習 A 担当利用者の介護目標の設定) : 個人ワーク					
15) 介護目標の発表 (展開実習 A 担当利用者の介護目標の発表) : プレゼンテーション					
[使用テキスト] ①堅田知佐 (2025) 「2025 年度版『介護過程の展開 I』レジュメ集」 ②介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 9 介護過程第 2 版」中央法規出版 ③堅田知佐 (2025) 「介護記録の考え方と書き方」					
[参考文献] ①大阪健康福祉短期大学 (2025) 「2025 年度版介護実習の手引き」					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (40%)	授業中に提示したレポート、演習結果を評価する				
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					

①筆記試験 (60%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220223

授業のタイトル (科目名) 介護過程の展開Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 知佐、金弦 敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 介護過程の実践的展開技能を獲得できる。 2. 利用者の望む生活を実現するための介護計画を立案し、展開実習 B にて実践した結果を評価し再立案することができる。 3. 介護過程に基づく介護実践の意義を説明することができる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 1年次に学んだ「介護過程の基本」「介護過程の展開Ⅰ」で学習した理論をふまえ、展開実習 A での担当利用者の事例をもとに介護計画再立案までの展開の考え方及び方法を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 対象者の個別ニーズに基づいて介護過程を展開するための実践力が身に付く。 2. 介護過程の展開が介護の目的を達成するための過程であることを実践を通して理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 介護過程の理論 (復習)			テキスト 1～3 章を読み、不明な点を明らかにしておく (2h)		
2) ニーズ及び介護目標アセスメントの方法と考え方 (復習)			「介護過程の基本」レジュメ集該当ページを読んでおく		
3・4) 介護計画立案① (展開実習 A 担当利用者の介護目標設定アセスメント) : 個人ワーク			展開実習 A 担当利用者のアセスメント結果を確認し、現時点での介護目標を設定する (1h)		
5) 介護計画立案② (展開実習 A 担当利用者の介護目標設定アセスメントの発表) : プレゼンテーション			プレゼン準備 (1h)		
5) 情報収集の理論と方法④ (アセスメントシートへの情報の記入) : 個人ワーク			「介護記録の書き方」該当ページを確認しておく		
6・7) 情報分析の理論と方法① (情報の関連性と全体像の明確化) : 個人ワーク			「介護過程の基本」「介護過程の展開Ⅰ」レジュメ集該当ページを読んでおく		
8) 情報分析の理論と方法② (情報の関連性と全体像の把握から見える「気づき」の視点)			「介護過程の基本」「介護過程の展開Ⅰ」レジュメ集該当ページを読んでおく		
9) 情報分析の理論と方法③ (ニーズの特定及びニーズ根拠の文章化) : 個人ワーク			「介護過程の基本」「介護過程の展開Ⅰ」レジュメ集該当ページを読んでおく		
10) 情報分析の理論と方法④ (アセスメント結果の発表) : プレゼンテーション・ディスカッション			プレゼン準備 (1h)		
11) 情報分析の実際① (展開実習 A 担当利用者アセスメント結果の発表) : プレゼンテーション					
12) 情報分析の実際② (展開実習 A 担当利用者アセスメント結果のディスカッション)					
13) 介護目標設定の考え方と視点			事前に配布する資料を読んでおく (1h)		
14) 介護目標設定のためのアセスメント① (展開実習 A 担当利用者の介護目標の設定) : 個人ワーク			「介護過程の基本」「介護過程の展開Ⅰ」レジュメ集該当ページを読んでおく		
15) 介護目標の発表 (展開実習 A 担当利用者の介護目標の発表) : プレゼンテーション					
[使用テキスト] ①介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 9 介護過程第 2 版」中央法規出版 ②大阪健康福祉短期大学 (2025) 「2025 年度版介護実習の手引き」 ③堅田知佐「介護記録の考え方と書き方」					

[参考文献]	
堅田知佐「2024年度介護過程の基本レジュメ集」「2024年度介護過程の展開Ⅰレジュメ集」	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（40%）	授業中に提示したレポート，演習結果を評価する
②実技・作品発表（%）	
【定期試験】	
①筆記試験（60%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
個人ワーク，プレゼンテーション結果の総評をその都度行う。筆記試験について，正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	
平常点評価は課題に対する取り組み状況を評価する。	
第5～15講の演習結果に対する教員コメント及びクラスでのディスカッション後の気づきを次の演習に反映させること。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220236

授業のタイトル (科目名) 介護過程の実践的展開		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加津山寛子、堅田知佐、金弦敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 要介護者が自身の生き方を自身で選択・決定し、充実した人生を送るために必要な支援について要介護者の生活実態を捉えた上で示すことができる。 2. 必要な支援について他職種及び対象者本人が納得できる説明ができるようになる。 3. 介護実践における介護過程の意義を多面的 (利用者の立場、介護実践、学問としての介護福祉など) に説明することができるようになる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 1. 「介護過程の基本」「介護過程の展開Ⅰ」「介護過程の展開Ⅱ」「介護実習Ⅱ」にて身に付けたアセスメント及び計画立案の知識及び技術を応用し、展開実習 B での担当利用者を事例に再アセスメントする。 再アセスメントは、担当利用者の生活課題が生じている要因を他科目で学んだ知識や新たな知見を踏まえて多角的に分析し直す。 2. その上で、再度介護計画を作成しクラスで発表する。 3. 展開実習 B での担当利用者への介護過程の展開結果をまとめプレゼンテーションする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 要介護者の生活ニーズが生じる要因を明らかにするために知識を応用する方法を身に付ける。 2. 利用者の尊厳をまもる方法を介護過程の考え方を通して説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 展開実習 B 担当利用者の介護計画作成までの過程の発表			介護過程作成までの過程を説明できるようにしておく (1h)		
2-4) 展開実習 B 担当利用者の情報調べ：個人ワーク			展開実習 B 担当利用者の介護過程を確認し不足情報を加えておく (1h)		
5) 展開実習 B 担当利用者の情報発表：プレゼンテーション			プレゼン準備 (1h)		
6-7) 展開実習 B 担当利用者の再アセスメント：個人ワーク					
8) 展開実習 B 担当利用者の再アセスメント結果発表：プレゼンテーション					
9-10) 展開実習 B 担当利用者の再アセスメントを踏まえた介護計画の作成：個人ワーク					
11) 展開実習 B 担当利用者の再アセスメントを踏まえた介護計画書の発表：プレゼンテーション					
12-13) 展開実習 B 担当利用者への介護過程の展開結果をプレゼンテーションソフトを用いて作成：個人ワーク					
14) 展開実習 B 担当利用者への介護過程の展開結果発表：プレゼンテーション					
15) まとめ：介護過程を展開することがなぜ利用者の尊厳を守ることにつながるのかをテーマにディスカッション→発表					
[使用テキスト] ①授業で配布するレジュメ ③介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 9 介護過程第 2 版」中央法規出版					
[参考文献] ①大阪健康福祉短期大学 (2025) 「2025 年度版介護実習の手引き」					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表 (50%)		プレゼンテーションの内容を評価する			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (50%)					
③実技試験 (%)					

④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 個人ワーク、プレゼンテーション結果の総評をその都度行う。	
[備考] 平常点評価は課題に対する取り組み状況を評価する。 演習結果に対する教員コメント及びクラスでのディスカッション後の気づきを次の演習に反映させること。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220244

授業のタイトル (科目名) ケアマネジメント論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 中村 高志	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3	セメスター	卒業必修・資格必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 対象者の地域生活ニーズを構造的に捉え、住み慣れた地域での生活を継続していくためのケアマネジメントを行うことができる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] テキストを中心に、アマネジメントの基礎理論を学び、対象者の尊厳が守られた地域生活を実現するための生活ニーズを充足するためのケアプランを作成する。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護の必要な対象者が住み慣れた地域で生活を続けていくための生活ニーズを構造的に捉え、説明することができる。 2. 生活ニーズを充足するためのケアマネジメント結果をケアプランとして作成することができる。 3. 既存の社会資源に加え、対象者の地域生活ニーズを充足させるために社会資源を開発していくことの重要性を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ケアマネジメントの定義・変遷・日本及び海外での展開			事前にテキスト該当箇所を読み、分からない用語の意味を調べておく(1h)		
2) ケアマネジメントの目的と焦点					
3) ケアマネジメントとソーシャルワーク及び介護福祉士の関係					
4) ケアマネジメントの構造					
5) ケアマネジメント過程					
6) 生活ニーズと社会資源					
7) 障害者総合支援法における地域生活支援事業とケアマネジメント					
8) 介護保険法におけるケアマネジメント					
9) 介護保険法における地域支援事業とケアマネジメント					
10) ケアマネジメントと地域包括ケアシステム			事前に配布する資料を読んでおくこと(1h)		
11) 地域ケア会議とケアマネジメント			事前に配布する資料を読んでおくこと(1h)		
12) 地域ケア会議とケアマネジメントの実際			事前に配布する資料を読んでおくこと(1h)		
13) ケアマネジメント演習① 事例をもとにケアマネジメントを行う1:個人ワーク					
14) ケアマネジメント演習② 事例をもとにケアマネジメントを行う2:個人ワーク					
15) ケアマネジメント演習③ 13講の演習結果発表:プレゼンテーション まとめ					
[使用テキスト] 白澤政和編(2019)『ケアマネジメント論 わかりやすい基礎理論と幅広い事例から学ぶ』ミネルヴァ書房					
[参考文献] ①介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規出版 ②野口定久(2018)『ゼミナール地域福祉学 図解でわかる理論と実践』中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(20%)	授業内で行う演習結果を評価する。				
②実技・作品発表(%)					
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(80%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					

平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポート試験は、学生個々に総評する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

200247

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 上山小百合、石田京子、堅田知佐	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 介護福祉の基礎理論が介護実践の場でどのように活用されているのかを説明することができる。 2. 介護事業所の法的根拠に基づくサービス内容を理解することができる。 3. 実践の経過や結果を、正確な記録として記すことができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 実習事前学習において、①実習施設の概要理解、②実習自己課題の設定、③実習事前訪問による実習内容の聞き取りを行う。事後学習では、介護福祉の知識と技術を統合した成果及び自らの課題を実習報告会にて報告する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 実習施設が対象者及び地域社会に果たしている役割を説明することができる。 2. 利用者との関りを通して、理論と実践との学びを統合化し、報告書にまとめることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 体験実習 I 事前学習 ①オリエンテーション (授業計画・実習日程・担当教員の確認) ②介護実習の概要 ③実習施設の概要について調べ学習 ④体験実習 I 実習施設希望調査					
2) 体験実習 I 事前学習 ①体験実習 I 「実習計画書」「守秘義務に関する誓約書」「実習評価表」の書き方説明と作成 ②実習事前訪問の概要					
3) 体験実習 I 事前学習 ①実習記録の書き方説明と練習 ②実習時の注意事項 ③体験実習 I 実習報告会概要説明 ④実習ファイル配布					
4) 体験実習 I 事後学習 ①お礼状の書き方の説明と作成 ②実習報告会資料作成方法の説明 ③体験実習 II 実習施設希望調査					
5) 体験実習 I 事後学習 ①実習報告会資料作成 ②実習報告会準備 (製本、会場設営、発表練習等)					
6)-8) 体験実習 I 事後学習 体験実習 I 実習報告会					
9) 体験実習 II 事前学習 体験実習 II 「実習計画書」「守秘義務に関する誓約書」「実習評価表」の作成					
10) 体験実習 II 事前学習 ①実習施設の概要について調べ学習 ②実習時の注意事項 ③体験実習 II 実習報告会概要説明 ④実習ファイル配布					
11) 体験実習 II 事後学習 ①お礼状・実習報告書作成 ②実習報告会準備					
12)-14) 体験実習 II 事後学習 体験実習 II 実習報告会					
15) 介護総合演習 I まとめ					
[使用テキスト] ①大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科 (2025) 「介護実習の手引き 2025 年度版」 ②堅田知佐「介護実習における記録の方法」 ③介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第 2 版」中央法規					
[参考文献] ①中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ②社会福祉法人大阪ボランティア協会編「福祉小六法 2025」中央法規出版					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (50%)	知識の習得, 技術の習得度を評価する。
②実技・作品発表 (50%)	実習報告資料, 報告会の内容を評価する。
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実習報告会にて教員より総評を行います。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120210

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 上山小百合、堅田知佐、金弦敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能及び事故に求められる課題把握等、総合的対応能力を習得する。 2. チームの一員として介護援助を遂行できる能力を身につける。 3. 事例研究を通し介護福祉士としての視点や能力を確認し、総合的な判断ができる力を身につける。 4. 様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合して論理的に表現することができる。就職に向けて現任の準備ができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 介護実習前の施設理解、利用者理解、実習後の報告会または実習期間中に学生が帰校日において学習する日を計画的に設け、実習に必要な知識や技術等について、実習と連動した学習内容とする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] どのような介護福祉士になりたいか、介護をどのように捉えるかなどを考えることが出来、利用者本位の介護実践ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション ①授業計画、日程、担当教員の確認			テキスト p2~4 を読む (1時間)		
2) 展開実習 A ①実習概要の理解、②実習目標の明確化と各自の目標設定、評価基準について			「介護実習の手引き 2025 年度版」 展開実習 A の概要を読む (1h)		
3) 展開実習 A 実習目標の明確化と各自の目標設定、評価基準について			展開実習 A の自己課題を考える (1時間)		
4) ①記録物の説明 (記録物の確認) ②自己紹介票の作成と提出 (課題設定の考え方について) 事前訪問について (事前訪問の時期)			展開実習 A で必要な記録について 「介護実習の手引き 2025 年度版」を見て確認する (30mm)		
5) 介護過程の復習 (アセスメント、介護計画作成、評価事項の理解) ①			「介護過程の基本」レジュメ集該当箇所をみて復習 (1h)		
6) 介護過程の復習 (アセスメント、介護計画作成、評価事項の理解) ②			事前に提示した演習課題を行う (1h)		
7) 介護過程の復習 (アセスメント、介護計画作成、評価事項の理解) ③			事前に提示した演習課題を行う (1h)		
8) 介護過程の復習 (アセスメント、介護計画作成、評価事項の理解) ④			事前に提示した演習課題を行う (1h)		
9) 記録用紙への記入方法についての説明			「介護実習における記録の方法」毎日の記録の書き方を確認する (1h)		
10) 実習報告会について ① 日程及び発表順の確認 ② 実習報告会資料 (グループワーク) ③ 介護過程の確認					
11) 帰校日：受け持ち対象者の情報整理とニーズの明確化			アセスメント表①～④を整理し記入しておく (1h)		
12) 帰校日：受け持ち対象者の情報整理とニーズの明確化			アセスメント表①～④を整理し記入しておく (1h)		
13) 振り返り ・介護過程や介護技術 (コミュニケーションや実技等) についての振り返りや、実習中の課題や解決策について話し合う) グループワーク			アセスメント表①～④を整理し記入しておく (1h)		
14) 実習報告会			実習報告練習 (30mm)		
15) 実習報告会			実習報告練習 (30mm)		
[使用テキスト] ①大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科 (2025) 「介護実習の手引き 2025 年度版」 ②堅田知佐「介護実習における記録の方法」 ③介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第 2 版」中央法規					
[参考文献]					

①中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（50%）	知識の習得，技術の習得度を評価する。
②実技・作品発表（50%）	実習報告資料，報告会の内容を評価する。
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120220

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田知佐、上山小百合、金弦敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 5. 介護福祉に関する知識 (主に生活支援技術) を実習での実践を経て統合することができる。 6. 介護福祉士としての態度と専門職としての倫理を身に付け、常に内省しながら自己の行動を振り返る姿勢を身に付けることができる。 7. 介護の専門性を科学的に分析し、新たな介護の視点を発見することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 「体験実習Ⅲ」: 実習事前学習において、①実習施設の概要理解、②実習自己課題の設定、③実習事前訪問による実習内容の聞き取り、生活支援技術の振り返りを行う。事後学習では、実習にて体験した根拠に基づく生活支援技術の振り返りと分析を行う。生活支援技術の知識と実践結果を統合した成果を実習報告会にて報告する。 「展開実習B」: 実習事前学習において、介護過程展開技術の振り返りを行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護体験や対象者との関りを通して、生活支援技術の根拠を科学的に分析し、新たな介護の視点を発見することができる。 2. 介護福祉士として求められる態度と行動についての意見を述べる事が出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) ①オリエンテーション (授業計画・実習日程・担当教員の確認) ②体験実習Ⅲの概要 ③体験実習Ⅲ実習施設 ④「実習計画書」「守秘義務に関する誓約書」「実習評価表」の説明と作成 ⑤生活支援技術の習得状況の自己チェック				体験実習Ⅲ 事前学習	「介護実習の手引き」 「介護実習における記録の方法」を読んでおく (1h)
2) ①生活支援技術振り返り					復習の必要な技術を確認しておく (30m)
3) ①「体験実習Ⅲ」実習記録の書き方説明 ②実習報告会の概要説明 ②実習ファイル配布				体験実習Ⅲ 事後学習	「介護実習における記録の方法」該当箇所を読んでおく (30m)
4) ①お礼状作成 ②実習報告書資料作成					
5) ①実習報告書資料作成 ②実習報告会準備 ③展開実習A実習施設希望調査					
6)・7) 「体験実習Ⅲ」実習報告会					プレゼン準備 (30m)
8) ①「展開実習B」実習施設発表 ②「展開実習B」実習概要説明 ③「実習計画書」「守秘義務に関する誓約書」「実習評価表」の説明と作成				展開実習B 事前学習	
9) ①「展開実習B」実習記録の書き方 (復習) ②事例検討会概要説明 ③実習ファイル配布 ④「体験実習Ⅳ」実習施設希望調査					
10-12) 「展開実習B」帰校日 ①実習状況報告書作成 ②実習記録の作成				展開実習B事後学習	
13)-15) 「展開実習B」事例研究会					プレゼン準備 (1h)
[使用テキスト] 大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科「介護実習の手引き 2024年度版」 大阪健康福祉短期大学 地域総合介護福祉学科「介護実習における記録の方法」					
[参考文献] ①中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ②中央法規編集出版部「福祉小六法2023」中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (50%)	知識、技術の習得度を評価する。				
②実技・作品発表 (50%)	事例研究会資料、事例研究会の内容を評価する。				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					

③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実習報告会及び事例研究会にて教員より総評を行います。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120230

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習Ⅳ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田知佐、石田京子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4	セメスター	資格必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 8. 介護福祉に関する知識を実習での実践を経て統合することができる。 9. 介護福祉士としての態度と専門職としての倫理を身に付け、常に内省しながら自己の行動を振り返る姿勢を身に付けることができる。 10. <u>介護の専門性を科学的に分析し、新たな介護の視点を発見・追求することができる。</u>					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 展開実習 B:実習事後学習において、実習にて体験した根拠に基づき主にコミュニケーション技術・生活支援技術・介護過程展開技術の振り返りと分析を行う。それぞれの技術の <u>知識と実践結果を統合した成果を事例研究会にて報告する。</u> 体験実習Ⅳ:実習の事前準備として、訪問時のマナーの習得や日本の家屋の特徴などの理解する。実習後学習では在宅での生活を継続するために必要な介護について学んだことを事例研究会で報告する。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護体験や対象者との関りを通して、介護福祉の根拠を科学的に分析し、新たな介護の視点を発見し、説明することができる。 2. 介護福祉士として求められる態度と行動についての意見を述べるすることができる。 3. 自身の介護観を形成し、他者に説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
「展開実習 B」:実習事後学習			展開実習 B の記録物の整理 (1 時間)		
1) 「展開実習 B」振り返りレポートの作成			〃		
2) 「展開実習 B」振り返りレポートの作成			〃		
3) 事例研究会			発表の練習 (30 分)		
4) 事例研究会			〃		
5) 事例研究会			〃		
6) 事例研究会			〃		
7) 「体験実習Ⅳ」概要説明 (実習内容、目標等)、実習自己紹介表及び実習計画書、各種誓約書の作成・提出			訪問介護実習で自分が何を学びたいのか考えてくる。(1 時間)		
8) 実習日誌及びアセスメントシートの書き方			実習手引きの体験実習Ⅳアセスメントシートの内容を確認しておく。(1 時間)		
9) 在宅介護の基本 (訪問時のマナーとしきたり)			家に訪問するときのマナーについて考えてくる。(30 分)		
10) 在宅介護の基本 (プライバシーへの配慮と個別性の尊重)			家の中で自分がくつろげる場所はどこか考えてくる。(30 分)		
11) 在宅介護の基本 (日本の家屋の理解・礼儀作法)			自分の家の構造をノートに書いてくる。(30 分)		
12) 体験実習Ⅳ報告会			発表練習 (30 分)		
13) 体験実習Ⅳ報告会			発表練習 (30 分)		
14) 体験実習Ⅳ報告会			発表練習 (30 分)		
15) 介護総合演習Ⅰ～Ⅳ総括 「本学で学んで思う私の介護観」をテーマに学内発表			2 年間の実習を振り返り、気づいたことをノートに書きだす。(1 時間)		
[使用テキスト] ①大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科「介護実習の手引き 2025 年度版」 ②堅田知佐「介護記録の考え方と書き方」					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (50%)		知識、技術の習得度を評価する。			
②実技・作品発表 (50%)		事例研究会、実習報告会の内容を評価する。			

【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120240

授業のタイトル (科目名) 介護福祉研究法 (2 セメスター)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田知佐、金弦敬子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 研究テーマ (主題) を設定し、研究対象及び研究方法を明確にすることができる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 1. 介護福祉に関する疑問や問題意識を明確にする。 2. 介護福祉に関する論文を読み、論文構成 (しくみ) を学ぶ。 3. 研究計画書を作成する。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究計画書を作成し、発表することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 論文とは何かを理解する					
2) 研究の問いを立てる① 興味・関心・疑問点を考える：個人ワーク			事前に配布した資料を読んでおくこと		
3) 研究の問いを立てる② 興味・関心のある事柄について調べる (一般知識・先行研究)			事前に配布する資料を読んでおくこと		
4) 研究の問いを立てる③ 研究の対象を考える：個人ワーク 研究計画書を作成する			事前に配布する資料を読んでおくこと		
5・6) 研究計画書の指導を受ける					
7・8) 研究計画書の発表：プレゼンテーション					
[使用テキスト] レジュメを準備します					
[参考文献] 大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科第2期生「卒業論文集」 大阪健康福祉短期大学「大阪健康福祉短期大学紀要『創発』」					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (30%)		個人ワークの到達度を評価する			
②実技・作品発表 (70%)		研究計画書、プレゼンテーションの内容を評価する評価する			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 平常点評価は課題に対する取り組み状況の評価する					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

320221

授業のタイトル (科目名) 介護福祉研究法 (3 セメスター)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田知佐、深田仁志、金弦敬子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 問いを明らかにするための研究方法を選択し、研究を進めることができる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 1. データ収集の方法を学ぶ。 2. 質的研究及び量的研究の方法、考え方、特徴を学ぶ。 3. ゼミにて個別指導を受ける。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 適切な研究方法を用いて、研究を進めることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 研究方法と調査設計 質的研究・統計学を用いた量的研究の方法を学ぶ			テキスト②5-7章を読んでおく(1h)		
2)-6) 指導教員のもとで指導を受けながら研究を進める					
7) 8) 論文中間報告会 プレゼンテーション			「論文執筆要項」を読んでおく (30mm)		
[使用テキスト] ①小熊英二(2017)。「基礎からわかる 論文の書き方」 講談社 ②地域総合介護福祉学科 「論文執筆要項」					
[参考文献] 矢原隆行 (2009) 「介護福祉士・介護福祉学生のためのよくわかる介護福祉研究入門」保育社 大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科第1期生「卒業論文集」 大阪健康福祉短期大学「大阪健康福祉短期大学紀要『創発』」					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表 (100%)		中間報告会での内容を評価する			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 平常点評価は課題に対する取り組み状況の評価する					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

320231

授業のタイトル (科目名) 介護福祉研究法 (4 セメスター)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田知佐、深田仁志、金弦敬子	
授業の回数	7 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 基本的な形式に則って論文を完成することができる。 2. 論拠に基づき自らの主張をすることができる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 1. 指導教員の指導を受けながら研究を完成させる。 2. 研究結果を発表する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 研究結果を論文にまとめ、論拠に基づいた主張をすることができる。 2. 研究を通し介護福祉の新たな価値を発見し、説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 論文執筆要項について 研究論文のまとめ方			「論文執筆要項」を読んでおくこと		
2-5) 指導教員のもとで指導を受けながら研究を進める					
6)7) 研究論文発表会					
[使用テキスト] ①小熊英二(2017)。「基礎からわかる 論文の書き方」 講談社 ②地域総合介護福祉学科 「論文執筆要項」					
[参考文献] 大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科第2期生「卒業論文集」 大阪健康福祉短期大学「大阪健康福祉短期大学紀要『創発』」					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表 (100%)		研究論文及びプレゼンテーションの内容を評価する			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 平常点評価は課題に対する取り組み状況の評価する					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

320241

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅰ (体験実習Ⅰ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 上山小百合、石田京子、堅田知佐	
授業時間	40 時間	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 介護事業所での介護体験を通し、それぞれの事業所が対象者の生活の質の向上のために、どのような役割を担っているのかを理解し、説明することができる。 2. 対象者との関りを通して、介護サービスを利用することで地域生活者としての役割をどのように継続しているのかを説明することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 1. 介護事業所における介護の実際についての見学・体験を行う。 2. 実習期間中に担当教員の指導を受ける。 2. 「介護総合演習Ⅰ」において実習準備を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 地域における様々な場において介護サービスを利用しながら生活している対象者の暮らしの実際を理解し、説明することができる。 2. 対象者本人や家族とのコミュニケーションを取り、関係の構築をするために実践する。 3. 介護事業所の地域及び対象者・家族への役割を理解し、説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1. 実習時間及び日数 8時間×5日=40時間 2. 実習内容 ①事業所の役割、利用者の日常生活における援助内容を学ぶ。 ②施設の役割・サービスの具体的内容を学ぶ ③実習前に学習したコミュニケーション方法を対象者の状態に合わせて実践する ④他職種がどのように連携しているのかを学ぶ ⑤対象者への生活支援技術 (主に身体介護) を見学する			「介護実習の手引き 2025年度版」の該当項を事前に読み実習事前準備を行うこと。 実習前オリエンテーションにて聞き取った事柄への準備を行うこと。(1h)		
[使用テキスト] ①大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科 (2025) 「介護実習の手引き 2025年度版」 ②大阪健康福祉短期大学 地域総合介護福祉学科「介護実習における記録の方法」 ③介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第2版」中央法規					
[参考文献] 中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準] 実習評価表に基づき、実習施設による評価を参考に、担当教員及び実習評価会議を経て評価を確定する。 授業に対する取り組み状況を評価する。					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 実習評価票に基づき、必要に応じて個別面談を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120211

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅰ (体験実習Ⅱ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 上山小百合、石田京子、堅田知佐	
授業時間	40 時間	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 介護事業所での介護体験を通し、それぞれの事業所が対象者の生活の質の向上のために、どのような役割を担っているのかを理解し、説明することができる。 2. 対象者との関りを通して、介護サービスを利用することで地域生活者としての役割をどのように継続しているのかを説明することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 1. 介護事業所における介護の実際についての見学・体験を行う。 2. 実習期間中に担当教員の指導を受ける。 2. 「介護総合演習Ⅰ」において実習準備を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 地域における様々な場において介護サービスを利用しながら生活している対象者の暮らしの実際を理解し、説明することができる。 2. 対象者本人や家族とのコミュニケーションを取り、関係の構築をするために実践する。 3. 介護事業所の地域及び対象者・家族への役割を理解し、説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1. 実習時間及び日数 8時間×5日=40時間 2. 実習内容 ①事業所の役割、利用者の日常生活における援助内容を学ぶ。 ②施設の役割・サービスの具体的内容を学ぶ ③実習前に学習したコミュニケーション方法を対象者の状態に合わせて実践する ④他職種がどのように連携しているのかを学ぶ ⑤対象者への生活支援技術 (主に身体介護) を見学する			「介護実習の手引き 2025年度版」の該当項を事前に読み実習事前準備を行うこと。 実習前オリエンテーションにて聞き取った事柄への準備を行うこと。(1h)		
[使用テキスト] ①大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科 (2025) 「介護実習の手引き 2025年度版」 ②堅田知佐「介護実習における記録の方法」 ③介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第2版」中央法規					
[参考文献] 中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準] 実習評価表に基づき、実習施設による評価を参考に、担当教員及び実習評価会議を経て評価を確定する。 授業に対する取り組み状況を評価する。					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 実習評価票に基づき、必要に応じて個別面談を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120211

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅰ (体験実習Ⅲ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 堅田知佐、上山小百合、石田京子	
授業時間	40 時間	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 介護事業所での介護体験を通し、それぞれの事業所が対象者の生活の質の向上のために、どのような役割を担っているのかを理解し、説明することができる。 2. 対象者との関りを通して、介護サービスを利用することで地域生活者としての役割をどのように継続しているのかを説明することができる。 3. 対象者の状態に応じた生活支援技術を見学し、実践することができる。 4. 他職種連携の実際を体験し、説明することが出来る。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 1. 対象者の生活の流れを理解し、それに対応した介護の方法を実践する。 2. 実習指導者の指導のもとで生活支援技術を実践する。 3. 毎日の記録をとして、自己の学習のまとめを行う。 4. 実習中の気づきや疑問を研究課題としてまとめる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 対象者の状態に合わせた生活支援技術を実践することができる。 2. 対象者本人や家族とのコミュニケーションを取り、関係の構築をするために実践する。 3. 介護事業所の地域及び対象者・家族への役割を理解し、説明することができる。 4. 他職種連携の意義と方法を説明することが出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1. 実習時間及び日数 8時間×5日=40時間 2. 実習内容 ①対象者の生活の流れを理解し、それに対応した介護の方法を実践する。 ②実習指導者の指導のもとで生活支援技術を実践する。 ④対象者及びその家族との信頼関係を気づくためのコミュニケーションを行う。 ⑤毎日の記録をとして、自己の学習のまとめを行う。 ⑥実習中の気づきや疑問を研究課題としてまとめる。 ⑦実習後半に、実習指導者及び担当教員参加による反省会を行う。				「介護実習の手引き 2025 年度版」の該当項を事前に読み実習事前準備を行うこと。 実習前オリエンテーションにて聞き取った事柄への準備を行うこと。(各 1h)	
[使用テキスト] 大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科「介護実習の手引き 2025 年度版」 堅田知佐「介護実習における記録の方法」					
[参考文献] 中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準] 実習評価表に基づき、実習施設による評価を参考に、担当教員及び実習評価会議を経て評価を確定する。 授業に対する取り組み状況を評価する。					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 実習評価票に基づき、必要に応じて個別面談を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120233

授業のタイトル (科目名) 介護実習 I (体験実習IV)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 堅田知佐、上山小百合	
授業時間	40 時間	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 訪問介護所の役割について説明することができる。 2. 訪問介護員が行う支援内容を説明することができる。 3. 在宅生活をしている要介護者の生活実態及び介護ニーズを理解し、説明することができる。 4. 在宅生活をしている要介護者への生活支援技術を実践することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 1. 在宅生活をしている要介護者への介護を訪問介護員と同行し、見学・体験する。 2. 実習指導者の指導のもとで生活支援技術を実践する。 3. 毎日の記録をとして、自己の学習のまとめを行う。 4. 実習中の気づきや疑問を研究課題としてまとめる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 対象者の状態に合わせた生活支援技術を実践することができる。 2. 対象者本人や家族とのコミュニケーションを取り、関係の構築をするために実践する。 3. 訪問介護事業所の地域及び対象者・家族への役割を理解し、説明することができる。 4. 他職種連携の意義と方法を説明することが出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1. 実習時間及び日数 8時間×5日=40時間 2. 実習内容 ①訪問介護員のもとで、在宅要介護者の心身状態を把握し、介護ニーズに応じた支援方法を学ぶ。 ②訪問介護員のもとで、在宅要介護者の人格を尊重した関りを学ぶ。 ④在宅要介護者と家族関係を理解し、家族介護の実際を学ぶ。 ⑤毎日の記録をとして、自己の学習のまとめを行う。 ⑥在宅介護に関わる他職種との連携について考える。 ⑦一人の対象者を対象に、介護過程を展開し介護ニーズを抽出する。				実習前には、それまでに学んだ科目の自身で復習をすること。「介護実習の手引き」を熟読しておくこと。(1時間)	
[使用テキスト] 大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科「介護実習の手引き 2025年度版」 堅田知佐「介護実習における記録の方法」					
[参考文献] 中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準] 実習評価表に基づき、実習施設による評価を参考に、担当教員及び実習評価会議を経て評価を確定する。 授業に対する取り組み状況の評価する。					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 実習評価票に基づき、必要に応じて個別面談を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120242

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅱ (展開実習 A)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 堅田知佐、上山小百合、石田京子	
授業時間	120 時間	時間数(単位数)	4 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 対象者の人格を尊重し、望む生活の実現に向けて、多職種との共同の中で、介護過程を実践する能力を身に付ける。 2. 多職種との協働を通して、介護福祉士としての役割を理解し説明できる。 3. 対象者の状態に応じた生活支援技術を実践することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 1. 一人の対象者を受け持たせていただき、その方の <u>介護ニーズを抽出</u> する。 2. 実習指導者の指導のもとで生活支援技術を実践する。 3. <u>多職種協働の実践</u> を行う。 4. 毎日の記録をとして、自己の学習のまとめを行う。 5. 実習中の気づきや疑問を研究課題としてまとめる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 受け持ち利用者の介護ニーズについて、根拠をもとに示すことができる。 2. 対象者本人や家族とのコミュニケーションを取り、関係の構築をするために実践することができる。 3. 対象者の状態に合わせた生活支援技術を実践することができる。 4. 多職種連携の意義と方法を説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1. 実習時間及び日数 8時間×15日=120時間 2. 実習内容 ①受け持ち利用者の情報分析を行い介護ニーズを抽出し、その根拠を図式化文章化し示す。 ②実習指導者の指導のもとで生活支援技術を実践する。 ③サービス担当者会議もしくはケースカンファレンスに出席する。 ④毎日の記録をとして、自己の学習のまとめを行う。 ⑤実習中の気づきや疑問を研究課題としてまとめる。 ⑥実習中盤及び後半に、実習指導者及び担当教員参加による反省会を行う。				実習前には、それまでに学んだ科目の自身で復習をすること。「介護実習の手引き」を熟読しておくこと。(1h)	
[使用テキスト] ①大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科「介護実習の手引き 2025年度版」 ②堅田知佐「介護実習における記録の方法」 ③介護福祉士養成講座編集委員会編(2022)「最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習第2版」中央法規					
[参考文献] 中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準] 実習評価表に基づき、実習施設による評価を参考に、担当教員及び実習評価会議を経て評価を確定する。 授業に対する取り組み状況の評価する。					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 実習評価票に基づき、必要に応じて個別面談を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120222

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅱ (展開実習B)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 堅田知佐、上山小百合、石田京子	
授業時間	176 時間	時間数(単位数)	4 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 対象者の人格を尊重し、望む生活の実現に向けて、他職種との共同の中で、介護過程を実践する能力を身に付ける。 2. 多職種との協働を通して、介護福祉士としての役割を理解し説明できる。 3. 対象者の状態に応じた生活支援技術を実践することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 1. 一人の対象者を受け持たせていただき、その方の <u>介護計画の作成から再立案まで行う</u> 。 2. 実習指導者の指導のもとで生活支援技術を実践する。 3. <u>多職種協働の実践</u> を行う。 4. 毎日の記録をとして、自己の学習のまとめを行う。 5. 実習中の気づきや疑問を研究課題としてまとめる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 受け持ち利用者の介護計画を実施し、そのモニタリング結果をもとに再立案まで行うことができる。 2. 対象者本人や家族とのコミュニケーションを取り、関係の構築をするために実践する。 3. 対象者の状態に合わせた生活支援技術を実践することができる。 4. 介護事業所の地域及び対象者・家族への役割を理解し、説明することができる。 5. 他職種連携の意義と方法を説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1. 実習時間及び日数 8時間×22日=176時間 2. 実習内容 ①受け持ち利用者の介護計画を立案する。 ②介護計画に基づく介護実践を行う。 ③介護実践を通して利用者のニーズが充足されたかを再アセスメントし、より高いニーズを充足するための介護計画を立案する。 ④実習指導者の指導のもとで生活支援技術を実践する。 ⑤サービス担当者会議もしくはケースカンファレンスに出席する。 ⑥毎日の記録をとして、自己の学習のまとめを行う。 ⑦実習中の気づきや疑問を研究課題としてまとめる。 ⑧実習中盤及び後半に、実習指導者及び担当教員参加による反省会を行う。				「介護実習の手引き 2025年度版」の該当項を事前に読み実習事前準備を行うこと。 実習前オリエンテーションにて聞き取った事柄への準備を行うこと。(各1h)	
[使用テキスト] 大阪健康福祉短期大学地域総合介護福祉学科「介護実習の手引き 2025年度版」 堅田知佐「介護実習における記録の方法」					
[参考文献] 中央法規編集出版部「介護福祉用語辞典」中央法規出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準] 実習評価表に基づき、実習施設による評価を参考に、担当教員及び実習評価会議を経て評価を確定する。 授業に対する取り組み状況の評価する。					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 実習評価票に基づき、必要に応じて個別面談を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120232

授業のタイトル (科目名) こころのしくみ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 人間のこころの機能や構造に関する基本的な事柄を学び、介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる知識を身につける。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] テキストを用いながら講義を行うが、必要に応じてプリントを準備する。体験的にも学習を含めることによって知識の定着を図る。定期的に小テスト、理解度の確認を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 人間の欲求についての知識を習得し、欲求階層説について説明することができる。 2. 自己実現や自己実現に必要な心の機能について考察することができる。 3. こころの様々な機能について一般化することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション (学習の進め方) / 人間の欲求① (基本的欲求)					
2) 人間の欲求② (社会的欲求)			各欲求の具体例を調べる。(0.5時間)		
3) 小テスト① / ライフステージにおける自己概念の発達			第1回～第2回分の学習の復習(2時間)		
4) パーソナリティ理論 (類型論と特性論)					
5) 小テスト② / 社会行動			第3回～第4回分の学習の復習(2時間)		
6) こころのしくみ① (脳とこころ)					
7) 小テスト③ / こころのしくみ② (感覚・知覚)			第5回～第6回分の学習の復習(2時間)		
8) こころのしくみ③ (記憶)					
9) 小テスト④ / こころのしくみ④ (学習)			第7回～第8回分の学習の復習(2時間)		
10) こころのしくみ⑤ (思考と言語)					
11) 小テスト⑤ / こころのしくみ⑥ (感情)			第9回～第10回分の学習の復習(2時間)		
12) こころのしくみ⑦ (動機付け)					
13) こころのしくみ⑧ (条件づけ)					
14) 小テスト⑥ / こころのしくみ⑨ (適応と不適応)			第11回分～第13回分の学習の復習(2時間)		
15) こころのしくみ⑩ (発達) / 小テスト⑦			第14回分の学習の復習(1時間)		
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会(編), 『最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』, 2022, 中央法規.					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (100%)		到達目標の内容を確認する筆記試験によって評価する。			
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
[備考] 小テストを実施する場合、それを平常点評価として加点する。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220313

授業のタイトル (科目名) からだのしくみ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 金弦 敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする対象児/者に対し、介護福祉士として必要な観察力、判断力の根拠となる人間のからだのしくみを説明できるようになることを目的とする。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 人体模型や教科書だけではなく、実際に自分のからだを用いて「からだのしくみ」の学習をすすめていきます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 対象児/者の「からだのしくみ」について、学んだ基礎知識を用いて専門用語を用いて説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：からだのしくみを学ぶ目的を理解する からだのつくりの理解 (身体各部の名称) と基本姿勢を自分の身体を用いながら他者へ説明できるようにグループワークをする。			身体各部の名称を復習する (1 時間)		
2) 内臓諸器官を含むからだの各部の名称と役割 人体模型を用いながら指し示し役割の概要を説明する。 小テスト 15 分 (身体各部の名称と基本姿勢)			内臓諸器官の名称を復習する (1 時間)		
3) 脳神経系 脳の発達と身体への繋がり of しくみ外観する。 小テスト 15 分 (内臓諸器官を含む各部の名称と役割)			脳神経系の復習をする (1 時間)		
4) 骨格系 骨の役割について講義を受け、骨の各部名称を用いてグループワークで説明する。 小テスト (脳神経系)			骨格の名称を復習する (1 時間)		
5) 筋系 小テスト 15 分 (骨格系)			筋の名称と部位を復習する (1 時間)		
6) 皮膚・感覚器系 小テスト 15 分 (筋系)			皮膚の構造を復習する (30 分)		
7) 血液・循環器系 小テスト 15 分 (皮膚、感覚器系)			体循環を復習する (1 時間)		
8) 呼吸器系 小テスト 15 分 (血液、循環器系)			鼻腔から肺の構造を復習する (1 時間)		
9) 消化器系 小テスト 15 分 (呼吸器系)			口から肛門までの名称と流れを復習する (1 時間)		
10) 腎・泌尿器・生殖器系 小テスト 15 分 (消化器系)			腎・泌尿器・生殖器系の構造を復習する (1 時間)		
11) 内分泌・代謝・免疫系 小テスト 15 分 (腎、泌尿器、生殖器系)			授業で示された代表的な内分泌を復習する (1 時間)		
12) 生命を維持するしくみ 恒常性 (ホメオスタシス) と自律神経系 小テスト 15 分 (内分泌、代謝、免疫系)			ホメオスタシスと自律神経系について復習する (1 時間)		
13) 生命を維持する徴候 体温、脈拍、呼吸、血圧などのバイタルサインの基準 小テスト 15 分 (ホメオスタシスと自律神経系)			バイタルサインの項目と基準値を復習する (1 時間)		
14) からだに影響を与える環境要因 圧力、熱、心的ストレスなど 小テスト 15 分 (体温、脈拍、呼吸などのバイタルサイン)					
15) まとめ					
[使用テキスト] ・最新介護福祉士養成講座 第 11 巻こころとからだのしくみ第 2 版 (中央法規)					

・必要に応じて資料を配布する。	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (%)	
② 実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
① 筆記試験 (100%)	
② レポート (%)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
小テスト実施後に正答を開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220314

授業のタイトル (科目名)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習)		授業担当者	
生活に関連したところとからだのしくみ		講義		金弦 敬子	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	4 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		卒業必修・資格必修			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の身体的・社会的側面を統合的に捉える知識を身につける。					2
[授業全体の内容の概要]					
ところとからだのしくみで学んだ基礎知識を用いながら、対象児/者の身支度や食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学びます。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。生活に関連させるために学生は自分の考えを発表しディスカッションをする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
日常生活と関連させながら「ところとからだ」の役割と変化を学び、観察力と多職種との連携について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 「健康」とは何か、「健康」を阻害する要因についてディスカッションをする。			自分にとって「健康」とは何か自分なりの意見を発表できるように考えてくる。(30分)		
2) 人間の欲求の基本的理解：基本的欲求、社会的欲求など					
3) 自己概念と尊厳 自己概念に影響する要因と自立への意欲、自己実現と生きがいについて			自分の「生きがい」について発表できるように考えてくる。(30分)		
4) ところののしくみの理解 人間のところの基本的理解、ところとは何か、脳との関係、学習や思考、感情、意欲と動機づけ、適応と欲求不満について					
5) からだののしくみの理解 からだのしくみで学んだ基礎知識を用い、日常生活動作(食事、入浴、移動、排泄、更衣)についてところのしくみと繋がる点をディスカッションする。					
6) 移動に関連したところとからだのしくみ：移動、基本姿勢、歩行と重心移動					
7) 機能の低下・障害が移動に及ぼす影響 麻痺、骨粗鬆症、神経疾患、転倒、廃用症候群、骨折、褥瘡など					
8) 移動に関するところとからだの変化の枠組と医療職等との連携 移動に関する「観察ポイント」、「多職種連携」、「緊急対応の方法」					
9) 身じたくに関連したところとからだのしくみ 身じたくの意味、顔/口腔/毛髪/髭の清潔、化粧の意味、更衣のしくみ					
10) 機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響 ①身じたく(洗顔、髭剃り、整髪や結髪、更衣)に関連する機能の低下・障害の原因(上肢の機能障害、視覚障害、精神機能低下など) ②機能の低下・障害が及ぼす身じたく(洗顔、髭剃り、整髪や結髪、更衣)への影響 ③口腔を清潔に保つことに関連する機能の低下・障害の原因(上肢の機能障害、視覚障害、精神機能低下、口腔機能の低下・障害など) ④機能の低下・障害が及ぼす口腔を清潔に保つことへの影響(歯周病・むし歯・歯牙欠損・口腔炎・嚥下性肺炎・口臭など)					
11) 身じたくに関するところとからだの変化の気づきと医療職等との連携 観察ポイント、多職種との連携、緊急対応の方法					
12) 食事に関連したところとからだのしくみ 食事の意味、食事バランスガイドとライフステージ、食欲のしくみ、のどが渇くしくみ			食事バランスガイドと自分の食事を照らし合わせる(30分)		
13) 食事に関連したところとからだのしくみ					

咀嚼と嚥下のしくみ（先行期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期）、姿勢、食事形態	
14) 機能の低下・障害が食事に及ぼす影響 摂食・嚥下機能の低下/障害、姿勢保持困難、食欲低下、便秘との関連、血糖異常との関連、低栄養、脱水について	
15) 食事に関連したところとからだの変化の気づきと医療職との等連携 観察ポイント、多職種との連携、緊急対応の方法	
16) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 入浴・清潔保持の意味、皮膚/爪/頭皮の汚れのしくみ、発汗のしくみ、入浴の効果と作用、リラックスと爽快感を感じるしくみ	
17) 機能の低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響 入浴・清潔保持に関連する機能低下と影響（呼吸器疾患と呼吸困難、循環器疾患と血圧変動/ヒートショック、皮膚状態の悪化、全身介助状態、認知機能低下、体調不良など）	
18) ところとからだのしくみと環境要因 室温がもたらすからだへの影響、清潔な空気の意味、生活文化と外的要因の関係	
19) 入浴・清潔保持に関連したところとからだの変化の気づきと医療職等との連携 観察ポイント、多職種との連携、緊急対応の方法	
20) 排泄に関連したところとからだのしくみ 排泄の意味、尿便生成のしくみ（性状、量、回数）、排泄における心理 排泄道具（洋式/和式/福祉用具/居室からの移動距離/外出先など）	
21) 機能の低下・障害が排泄に及ぼす影響 運動機能低下や麻痺や認知機能低下による動作障害、尿路感染症、前立腺肥大症、心理的影響、失禁、頻尿、便秘/下痢	
22) 生活場面における排泄に関連したところとからだの変化の気づきと医療職等との連携 観察ポイント、多職種との連携、緊急対応の方法	
23) 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ 休息・睡眠の意味、睡眠時間、サーカディアンリズム（概日リズム）、レム睡眠/ノンレム睡眠、睡眠と体温やホルモンの関係	自分の睡眠を振り返る（睡眠時間、質）（15分）
24) 機能の低下が休息・睡眠に及ぼす影響 加齢による睡眠の変化、活動や環境による影響、睡眠障害、意欲など	自分の睡眠環境について授業で学んだ工夫を取り入れ実践してみる（30分）
25) 生活場面における休息・睡眠に関連し変化の気づきと医療職等との連携 観察ポイント、多職種との連携、緊急対応の方法	
26) 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 生物学/法/臨床的な死、尊厳死と安楽死、リビングウィル	
27) 「死」に対するところの理解 恐怖・不安・死の受容段階、家族の「死」を受容する段階	
28) 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 身体機能の特徴、危篤時の変化、死の三徴候、死後の身体変化	
29) 終末期における医療職との連携 終末期から危篤時に行われる医療の実際（呼吸困難時、疼痛緩和など）、観察ポイント、介護の役割と医療との連携、死亡診断書と死後の処置	
30) まとめ	
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 第11巻 ところとからだのしくみ第2版（中央法規）	
[参考文献]	

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (20%)	授業内での発表、ディスカッションを通して理解度を確認し、評価します。
② 実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
① 筆記試験 (80%)	
② レポート (%)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
授業内での発表、ディスカッションの際に、個別/全体に対してフィードバックをします。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

200324

授業のタイトル (科目名) 精神保健		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 吉岡 伸一	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験	精神科医として精神保健の業務に携わった経験を活かし、精神保健の講義を行う。				
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識という観点や、増大している精神障害、知的障害の分野で必要とされる心理社会的なケアについての基礎的な知識を養い、介護場面に共通する精神保健の概要を理解し、介護の場面で根拠を説明でき、精神障害のある方を介護する対応や態度を身につけ、実践できる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] シラバスに従い、教科書、配布資料、DVDなどの教材を利用し、授業を行う。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 介護や福祉に対する深い関心をもち、介護福祉士に必要な精神保健・精神障害のある方への対応や知識を主体的に学び、自ら考える力をもち、現場での対応に活かすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 精神保健の基礎 (1) ①精神保健とは②精神保健の歴史：精神保健の歴史を学び、現在の精神保健の概要を理解する：資料とあわせて行う			精神保健の概要や歴史について調べる。(30分)		
2) 精神保健の基礎 (2) ①心の働きとその理解②精神障害の原因③ライフイベントと心理検査：心の働きを生物心理社会的に理解し、精神障害の原因を理解し、ライフイベントと心理検査の概要を理解する：資料をあわせて行う			精神障害の原因、心理検査について調べる。(30分)		
3) 精神症状の基礎①精神症状と障害について：精神症状に関する専門用語を理解し、障害と対応できる：資料をあわせて行う			精神症状の概要について調べる。(30分)		
4) 精神障害の知識 (1) ①器質性精神障害 (認知症その他) ②高次脳機能障害 ③精神作用物質による障害：器質性精神障害、高次脳機能障害などの障害を理解する：資料を組合せ、DVDなどを活用し行う			器質性精神障害、高次脳機能障害とは何かについて調べる。(30分)		
5) 精神障害の知識 (2) ・①統合失調症②気分障害：統合失調症、気分障害を理解する：資料を組合せ、DVDなどを活用し行う			統合失調症と気分障害とはどのようなものかについて調べる。(30分)		
6) 精神障害の知識 (3) ①神経症性障害その他②生理的障害③パーソナリティの障害：神経症性障害、生理的障害、パーソナリティの障害を理解する：資料を組合せ、DVDなどを活用し行う			神経症、パーソナリティ障害の概要について調べる(30分)		
7) 精神障害の知識 (4) ①知的障害②心理的発達の障害：知的障害、心理的発達の障害を理解する：資料を組合せ、DVDなどを活用し行う			知的障害、発達障害の概要について調べる。(30分)		
8) 精神障害の知識 (5) 小児期及び青年期の障害②てんかん：小児期及び青年期の障害、てんかんを理解する：資料を組合せ、DVDなどを活用し行う			てんかんの概要について調べる。(30分)		
9) 精神障害の治療 (1) ①身体療法 (薬物療法その他)：薬物療法のメカニズムをはじめ、身体療法の概要を資料を組合せ、DVDなどを活用し行う			精神障害の治療に使用される向精神薬の概要について調べる。(30分)		
10) 精神障害の治療 (2) ①精神療法・心理療法②社会療法 (精神科リハビリテーション)：精神療法・心理療法の種類と効果、精神科リハビリテーションなどの社会療法を理解する：資料を組合せ、DVDなどを活用し行う			精神療法や精神科リハビリテーションについて調べる。(30分)		
11) 社会と精神保健 (1) ①家庭の精神保健②学校の精神保健：家庭や学校の精神保健を理解する：資料を組合せ、DVDなどを活用し行う			学校の精神保健の課題について調べる。(30分)		
12) 社会と精神保健 (2) ①職場の精神保健②病院・施設の精神保健：職場や病院・施設の精神保健を理解する：資料を組合せて行う			職場の精神保健の課題について調べる。(30分)		
13) 社会と精神保健 (3) ①災害その他特殊な状況下での精神保健②終末期と看取り：災害や特殊状況下での精神保健、終末期と看取りについて理解する：資料を組合せて行う			災害時の精神保健や終末期の対応について調べる。(30分)		
14) 連携と協同 (1) ①地域精神保健の考え方②地域精神保健活動の変遷：地域精神保健の考え方や活動の変遷について理解する：資料を組合せて行う			地域精神保健の社会資源について調べる。(30分)		
15) 連携と協同 (2) ①地域精神保健福祉の最近の動向②地域精神保健福祉活動の実際：地域精神保健福祉の動向や活動の実際について理解する：資料を組合せて行う			地域精神保健福祉活動について調べる。(30分)		
[使用テキスト]なし (配布資料をもとに講義するが、参考文献を借りて、適宜、読んでください)					
[参考文献] 新版精神保健第3版、石井厚監修、医学出版社、2016年。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					

① 到達度の確認 (10%)	
②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
① 筆記試験 (90%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考] 事前学習による提出物も評価する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220323

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1セメスターの「こころのしくみ」での学習内容を基礎として、生涯発達の視点から発達に関する心理学的変化の特徴についての基礎的知識の習得を目指す。また、この学習を通して、DP2の達成や発達特性に応じた介護を実践するための知識を身に付けることを目指す。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 目的やねらいに沿って、テキストや教材を中心に進める。発達に関する基礎的知識や諸理論の他、老年期の発達の特徴、老化に伴う心身の変化、適応などについて学習を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1.各発達段階における発達の特徴について説明することができる。 2.老年期の心身の変化や特徴について説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 発達段階と発達課題			テキスト第1章～第2章をざっと読む(3時間)		
2) 発達理論① (フロイトとピアジェ)					
3) 発達理論② (成熟説、学習説、輻輳説、環境閾値説) と生涯発達			12～16 ページ、22 ページを読む (1 時間)		
4) 発達理論③ (エリクソンの発達理論と乳幼児期の発達)					
5) 発達理論③ (エリクソンの発達理論と児童期の発達)			乳幼児期の発達の特徴をまとめる (1 時間)		
6) 発達理論③ (エリクソンの発達理論と青年期の発達)			児童期の発達の特徴をまとめる (1 時間)		
7) 発達理論③ (エリクソンの発達理論と成人期・老年期の発達)			青年期の発達の特徴をまとめる (1 時間)		
8) 社会とのつながりと発達					
9) セクシュアリティの発達					
10) 認知機能の発達					
11) ことばの発達					
12) パーソナリティの発達					
13) パーソナリティの生涯発達と老年期の適応・不適応					
14) 青年期以降の心身の障害			成人期以降の発達の特徴をまとめる (2 時間)		
15) 老年期の心理社会的課題と死/学習のまとめ					
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会(編), 『最新介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解』, 2022, 中央法規.					
[参考文献] 正高信男, 『老いはこうしてつくられる こころとからだの加齢変化』, 2003, 中公新書.					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (20%)		第15回の「学習のまとめ」で評価する。			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (80%)		到達目標に記載の内容を確認するための筆記試験によって評価する。			
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 正答を試験終了後に解説とともに開示する。					
[備考] 準備学習の内容の箇所のページ番号はテキストのページ番号を指す。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

210321

授業のタイトル (科目名) 老化と高齢者の健康		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 金弦 敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を踏まえ、老化に伴うこころとからだの変化と生活について高齢者に多くみられる病気を理解する。さらに、病気がもたらす生活への影響を理解する。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる病気と生活への影響、健康の維持、増進を含めた生活を支援するための基礎的な内容の理解を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と日常生活に及ぼす影響について理解できる。 2. 高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす影響について理解できる。 3. 高齢者の健康増進・維持を含めた生活支援のための基礎的知識が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 人間の成長と基本的理解					
2) 人間発達とライフイベント			自分が関わったライフイベントを列挙してくる。(例：誕生、七五三、家族の冠婚葬祭など) (30分)		
3) 老年期の定義・老年期の発達課題					
4) 老年期の特徴と発達課題					
5) 老化に伴うこころの変化と日常生活					
6) 老化に伴うからだの変化と日常生活					
7) 老化に伴うこころとからだの変化と社会的な変化 生涯発達					
8) 高齢者と健康① 高齢者に多い疾患 症状と生活上の留意点 (脳卒中、がん、認知症、骨粗鬆症など)					
9) 高齢者と健康② 高齢者に多い疾患 症状と生活上の留意点 (心臓病、糖尿病、パーキンソン病など)					
10) 高齢者と健康③ 高齢者の症状・疾患特徴 [骨関節系、呼吸器・循環器系、消化・内分泌系]					
11) 高齢者と健康④ 高齢者の症状・疾患特徴 [腎泌尿器・生殖器、悪性新生物、歯口腔、感覚器、精神機能]					
12) 高齢者と健康⑤ 高齢者に多い病気と生活の留意点 (通院、服薬、健康習慣) についてグループ討議まとめ					
13) 高齢者を取り巻く環境① 保険医療職との連携					
14) 高齢者を取り巻く環境② 核家族と独居、社会的要因					
15) まとめと発表 授業で学んだ知識を活かし、身近な高齢者に対し自分ができることを発表できるよう資料を作成する。(60分) グループで発表(10分)し、ディスカッション(10分)することにより視野を広げ深める。					
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 第12巻 発達と老化の理解 (中央法規)					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (20%)	授業内での発表、ディスカッションを通して理解度を確認し、評価します。				
② 実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					

① 筆記試験 (80%)	
② レポート (%)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業内での発表、ディスカッションの際に、個別/全体に対してフィードバックをします。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

210320

授業のタイトル (科目名) 認知症のケア I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 吉岡 伸一	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1	セメスター	卒業必修・資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験	精神科医としての経験を基に、認知症をケアする上で必要な知識や技術の講義を行う。				
[授業の目的・ねらい] 認知症本人や家族や施設等の介護者などの支援者をケアするために、認知症を理解し、支援する上で共通する医学的基礎知識について理解し説明でき、実践できる。				主に対応するDP 2	
[授業全体の内容の概要] シラバスに従い、教科書、配布資料、DVD やスライドなどを利用し、授業を行う					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症の人の症状や行動の理由や意味に気づきを理解し説明できる。認知症の人が置かれている現状を理解し、支援場面において、気づきや理解を考え、実践に向けて説明できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 認知症の基礎的理解 (1) 認知症のある高齢者の現状を理解し、今後の状況を説明する。:教科書に基づき、資料と併せて行う。			わが国の高齢者の現状について調べる。(30分)		
2) 認知症の基礎的理解 (2) 認知症の定義と診断基準、症状の全体像と特徴を理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症の概要について調べる。(30分)		
3) 認知症の基礎的理解 (3) 脳のしくみと老化に伴う脳の変化、認知症の人の心理について理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			脳の老化に伴う変化について調べる。(30分)		
4) 認知症の症状・診断・治療・予防 (1) 認知症の中核症状を理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症の中核症状について調べる。(30分)		
5) 認知症の症状・診断・治療・予防 (2) 認知症の生活障害、BPSDを理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症のある人の生活障害、BPSDについて調べる。(30分)		
6) 認知症の症状・診断・治療・予防 (3) 認知症の診断と重症度、原因疾患と症状・生活障害の概要を理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症の診断にはどのようなものがあるか調べる。(30分)		
7) 認知症の症状・診断・治療・予防 (4) アルツハイマー型認知症など種々の認知症を理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			アルツハイマー型認知症の概要について調べる。(30分)		
8) 認知症の症状・診断・治療・予防 (5) 認知症に類似した状態、せん妄、若年認知症について理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			せん妄の概要について調べる。(30分)		
9) 認知症の症状・診断・治療・予防 (6) 認知症の治療や予防を理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症の予防の概要について調べる。(30分)		
10) 認知症ケアの歴史と理念 (1) 認知症を取り巻く状況や歴史について理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症を取り巻く状況や歴史について調べる。(30分)		
11) 認知症ケアの実際 (1) ケアの実際を理解し、今後の認知症ケアの支援に向けて理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症ケアの実際、パーソン・センタード・ケアについて調べる。(30分)		
12) 認知症ケアの実際 (2) 認知症の人の心理状態や特性を踏まえ、認知症の人とのコミュニケーション、さまざまなケアやアプローチについて理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症の人とのコミュニケーションについて調べる。(30分)		
13) 介護者支援 (1) 認知症の家族への支援、介護福祉職への支援について理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症に対する介護福祉職の支援の在り方について調べる。(30分)		
14) 認知症の介護者の支援 (1) 認知症の家族への支援、介護福祉職への支援について理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			認知症に対する介護福祉職の支援の在り方について調べる。(30分)		
15) 認知症の人の地域生活支援 (1) 地域包括ケアシステム、多職種連携と協働について理解する。:教科書に基づき、資料などを活用し行う。			地域包括ケアシステムとは何か調べる。(30分)		
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」第2版 (中央法規、2022年)					
[参考文献] 授業中に提示資料を配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (10%)					
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
① 筆記試験					

(90%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考] 事前学習による提出物も評価する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

200310

授業のタイトル (科目名) 認知症のケアⅡ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 金弦 敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 認知症の人を取り巻く現状、症状に関する基礎的な知識を学び、認知症ケアの基本的な技術に関する知識を身に付ける。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] テキスト、配布資料、スライドなどを使用しながら授業をおこないます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症の人を取り巻く現状について理解し、概要を説明できる。 基礎的知識を身に付け、症状や影響要因について具体的な例示ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 認知症の人の医学的理解と心理的理解の振り返り			「認知症」にまつわる記事 (ニュースや新聞、厚生労働省 HP など) を 400 文字以内でレポートにまとめる (1 時間)		
2) 認知症の人の理解と生活の捉え方 パーソナリティの変化 環境への働きかけの変化					
3) 家族の理解・認知症の人との関係理解 最初の困惑 受診の困難さ サービス導入 ストレスの開放と愚痴 家族との関係と理解					
4) 認知症の人のアセスメント 意思権利決定支援と権利擁護 生活の質の保証					
5) 認知症の人のアセスメントⅡ 権利擁護とリスクマネジメント					
6) 認知症の人のアセスメントⅢ 認知症の人のケアマネジメントセンター方式の理解					
7) 認知症の原因疾患別の支援 アルツハイマー型認知症 血管性認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症					
8) 認知症の人を理解したコミュニケーション コミュニケーション手段 コミュニケーション基本姿勢					
9) ぼけますから、よろしくお願いします。(DVD) (ディスカッション)					
10) ぼけますから、よろしくお願いします。(DVD) (ディスカッション)					
11) 人的環境と住居環境を考える 認知症の人の為の住環境 家族との関係 他の援助者との関係 地域住民との関係					
12) 認知症の人への関わり方 パーソンセンタードケア、ユマニチュード、バリデーション					
13) 地域社会環境を考える (フィールドワーク) 地域社会 社会制度 生活文化や伝統			安来市における認知症支援制度を調べる (30分)		
14) 生活支援の方法を考える (グループワーク) 生活支援の基本的支援					
15) 生活支援の方法を考える (プレゼンテーション) 事例検討					
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解 中央法規					
[参考文献]					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (%)	
②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (80%)	
②レポート (20%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
正答と解答のポイントを試験期間終了後に開示する	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220322

授業のタイトル (科目名) 障がいの医学的理解		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 金弦 敬子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 障がいのある人の生活を支援する視点から、生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援を理解するために、障がいの基礎的な知識を養う。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 他科目「こころとからだのしくみ」と連動する内容である。他科目での学びと連動して理解を深めるために、授業内で積極的なディスカッション方法と取り入れながら学習を進める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
① 障がいについての基礎的理解ができる。 ② 障がいの医学的・心理的側面への基礎的理解ができる。 ③ 対象児/者や家族、周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション ・「障がいのある人とはどのような人たちか」についてグループディスカッションをする。 ・介護福祉士が障がいのある人の生活を支える意義を理解することができる。			「障がい」とは何か、自分なりの意見を発表できるように考えてくる。(30分)		
2) 障がいの概念 福祉における障がいの定義、ICIDH から ICF への変遷を理解できる。					
3) 身体障がいの基本的理解①定義と推移					
4) 身体障がいの基本的理解②視覚障がいの種類 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			視覚障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
5) 身体障がいの基本的理解③聴覚・言語機能障がい 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			聴覚言語障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
6) 身体障がいの基本的理解④肢体不自由 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			肢体不自由にはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
7) 身体障がいの基本的理解⑤心臓・腎臓・膀胱直腸障がい 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			心臓/腎臓/膀胱直腸障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
8) 身体障がいの基本的理解⑥呼吸機能障がい 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			呼吸障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
9) 身体障がいの基本的理解⑦内部障がい 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			内部障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
10) 身体障がいの基本的理解⑧重症心身障がい 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			重症心身障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
11) 身体障がいの基本的理解⑨精神障がい 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			精神障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
12) 身体障がいの基本的理解⑩高次脳機能障がい 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			高次脳機能障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
13) 身体障がいの基本的理解⑪発達障がい 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			発達障がいにはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
14) 身体障がいの基本的理解⑫難病 種類、原因、特性、心理・社会的特徴、生活への影響を理解できる。			難病にはどのような種類があるのか教科書を読んでおく。(30分)		
15) まとめ					
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解 第2版(中央法規)					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					

【平常試験】	
① 到達度の確認 (%)	
② 実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
① 筆記試験 (100%)	
② レポート (%)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業内での発表、ディスカッションの際に、個別/全体に対してフィードバックをします。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220311

授業のタイトル (科目名) 障がいの理解		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 京 俊輔	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		障がい者支援の経験を活かし、事例等提示しながら障がいのある人の生活や支援方法等を説明する			
[授業の目的・ねらい] ①障害者福祉の理念や今日の障害の捉え方を理解する。(DP1, 3) ②障害者福祉に関する各種制度を理解し、それぞれの特徴や違いを説明できる力を身につける。(DP2) ③介護や支援の現場で求められる、障害者の尊厳を護るための態度を身につける。(DP1, 4)					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 障害者福祉の理念や制度、社会的障壁などを具体例や視聴覚教材等も用いながら説明していきます。障害者福祉に関する事例等も活用し、支援に必要とされる支援者の態度や価値観についても説明します。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ①障害者福祉の理念及び制度について説明できる。 ②「社会モデル」に基づく障害の捉え方について説明できる。 ③障害の違いおよび支援で用いられる技術や介護者の態度について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障害の概念と障害者福祉の基本理念① 障害の概念			予習 (テキスト p2～12) 1 時間		
2) 障害の概念と障害者福祉の基本理念② ノーマライゼーション～インクルージョン			予習 (テキスト p13～21) 1 時間		
3) 障害の概念と障害者福祉の基本理念③ 障害者権利条約			予習 (テキスト p22～25, 外務省「障害者権利条約パンフレット」) 1 時間		
4) 障害の概念と障害者福祉の基本理念④ 障害者福祉に関連する制度 (1) 障害者総合支援法			予習 (テキスト p27～32, 全国社会福祉協議会「障害者総合支援法パンフレット」) 1 時間		
5) 障害の概念と障害者福祉の基本理念⑤ 障害者福祉に関連する制度 (2) 障害者福祉制度と介護保険制度			予習 (テキスト p39～44) 1 時間		
6) 障害の概念と障害者福祉の基本理念⑥ 障害者福祉に関連する制度 (3) 障害者差別解消法、障害者虐待防止法			予習 (テキスト p32～38) 1 時間		
7) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援① 障害のある人の心理、肢体不自由			予習 (テキスト p48～67) 1 時間		
8) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援② 視覚障害、聴覚・言語障害			予習 (テキスト p68～86) 1 時間		
9) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援③ 内部障害			予習 (テキスト p96～147) 1 時間		
10) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援④ 知的障害			予習 (テキスト p160～171) 1 時間		
11) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑤ 精神障害			予習 (テキスト p172～183) 1 時間		
12) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑥ 高次脳機能障害・発達障害 (1)			予習 (テキスト p 184～207) 1 時間		
13) 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑦ 高次脳機能障害・発達障害 (2)			予習 (テキスト p 184～207) 1 時間		
14) 連携と協働			予習 (テキスト p222～247) 1 時間		
15) 家族への支援・まとめ			予習 (テキスト p250～262) 1 時間		
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 『介護福祉士養成講座 障害の理解』中央法規.					
[参考文献] 講義時に適宜提示します					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (100%)		筆記による試験を行います。			

②レポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考] 受講時の配慮を希望する学生は、事前に相談してください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

100312

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア概論 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 石田 京子、深田映子、加藤かほる	
授業の回数 20 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアが必要な人が安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアの実施の基礎と喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順) について学ぶ。基礎的知識は講義、グループワーク等を行い、実施手順については、DVDを視聴し実際の器材や物品を使い説明する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・医療的ケア実施に関する制度の概要、「個人の尊厳と自立」「倫理上の留意点」「感染予防」「安全管理体制」等について理解できる。 ・喀痰吸引について根拠に基づく実技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 医療的ケア実施の基礎：医療的ケアとは・医行為について			テキスト p 2～3 を読む (30 分)		
2) 医療的ケア実施の基礎：喀痰吸引等制度について 社会福祉士及び介護福祉士法の改正 (介護福祉養成課程における「医療的ケア」) その他の制度			テキスト p 11～12 を読む (30 分)		
3) 医療的ケア実施の基礎：安全な療養生活① 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施・リスクマネジメント			介護福祉士が行う医療的ケアの内容について復習する (小テスト) (1 時間)		
4) 医療的ケア実施の基礎：安全な療養生活② 救急蘇生			テキスト p 37～38 を読む (30 分)		
5) 医療的ケア実施の基礎：清潔保持と感染予防① 感染予防の基礎的知識 (正しい手洗い・うがい) スタンダード・プリコーション			実際の手洗いの時間を測定してくる (30 分)		
6) 医療的ケア実施の基礎：清潔保持と感染予防② 介護福祉職の感染予防・療養環境の清潔、消毒法			感染予防について復習 (小テスト) (1 時間)		
7) 医療的ケア実施の基礎：健康状態の把握① バイタルサインとその見方			自分の脈拍を測定してくる (30 分)		
8) 医療的ケア実施の基礎：健康状態の把握② 急変状態について			バイタルサインの正常値について復習 (小テスト) (1 時間)		
9) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) 呼吸のしくみとはたらき			テキスト p 96～100 を読む。 (1 時間)		
10) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) いつもと違う呼吸状態 (痰の性状の変化)			呼吸のしくみとはたらきについて復習 (小テスト) (1 時間)		
11) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) 喀痰吸引とは			テキスト p 104～105 を読む (30 分)		
12) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) 人工呼吸と吸引・気管カニューレ内部の吸引			テキスト p 107 を読む (30 分)		
13) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) 子どもの吸引			NPPVの装着についてのレポート作成 (1 時間)		
14) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意			子どもの吸引について復習 (小テスト) (1 時間)		
15) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) 呼吸器系の感染と予防			テキスト p 126～127 を読む (30 分)		
16) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 (ヒヤリハット・アクシデント報告書の書き方)			呼吸器感染の復習 (小テスト) (1 時間)		
17) 喀痰吸引 (基礎知識・実施手順) 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持			家にある漂白剤の成分を見る (30 分)		

18) 喀痰吸引（基礎知識・実施手順） 吸引技術と留意点（吸引前の利用者の状態観察と留意点・吸引前の準備）	喀痰吸引の必要物品を覚える（小テスト） （1時間）
19) 喀痰吸引（基礎知識・実施手順） 吸引実施手順と留意点	テキスト p 154～155 の手順を確認する （1時間）
20) 喀痰吸引（基礎知識・実施手順） 喀痰吸引にともなうケア、報告および記録	喀痰吸引の手順を資料を見ながら復習する （1時間）
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第2版 中央法規 2022	
[参考文献] 最新 介護福祉士全書 医療的ケア メジカルフレンド社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ %）	
②実技・作品発表（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（100%）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 单元ごとに振り返りテストを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220430

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア概論Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 深田映子、加藤かほる	
授業の回数 14 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアが必要な人が安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 経管栄養 (基礎的知識・実施手順) について学ぶ。利用者像をイメージできるように事例をもとにグループワーク等を行い、実施手順については、DVDを視聴し実際の器材や物品を使い説明する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 経管栄養について根拠に基づく実技が安全に実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 消化器系のしくみとはたらき			テキスト p 169 (図 3-1) の消化管の構造と各部の名称を覚える。(からだのしくみの復習) (30分)		
2) 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 消化・吸収とよくある症状			嚥下のプロセス (5つ) について復習する (小テスト) (30分)		
3) 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養とは、注入する栄養剤に関する知識 実施上の留意点			テキスト p 176 を読む。(20分)		
4) 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 子どもの経管栄養 感染と予防			経管栄養とは何か説明できるように復習する。(30分)		
5) 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意			経管栄養を受ける人の気持ちを考え、ノートに書く。(30分)		
6) 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 (ヒヤリハット・アクション報告書)			テキスト p 195 を読む。(20分)		
7) 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持			テキスト p 205 を読む。(20分)		
8) 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養の技術と留意点			テキスト p 210 を読む。(20分)		
9) 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養実施手順と留意点			テキスト p 214 実施手順を読む。(30分)		
10) 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養終了後の片づけと留意点			実施手順の復習をする。(30分)		
11) 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養に必要なケア			消毒方法 (消毒薬の種類、濃度、消毒時間) を復習する。(30分)		
12) 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 報告と記録			テキスト p 204 を読む。(20分)		
13) まとめ・経管栄養実施の留意点・実施手順の確認			手順を覚える。(30分)		
14) まとめ・喀痰吸引実施の留意点・実施手順の確認			手順を覚える。(30分)		
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第2版 中央法規					
[参考文献] 最新 介護福祉士全書 医療的ケア メジカルフレンド社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					

①筆記試験 (100%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 単元ごとに振り返りテストを行う	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

320240

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 石田京子、深田映子、加藤かほる	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 10 時間 1 単位	配当 4	セメスター	資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] シュミレーターを使用し喀痰吸引・経管栄養の実施が安全・適切に行うことができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] シュミレーターを使用し、救急法 1 回、喀痰吸引 (口腔内 5 回・鼻腔内 5 回・気管カニューレ内部 5 回 以上)、 経管栄養 (胃ろうまたは腸ろう 5 回・経鼻経管栄養 5 回 以上) の演習を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 喀痰吸引 (口腔内 5 回・鼻腔内 5 回・気管カニューレ内部 5 回) の演習 5 回目に評価項目がすべての合格となる。 経管栄養 (胃ろう・腸ろう 5 回・経鼻経管 5 回) 演習 5 回目に評価項目がすべての合格となる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 救急法演習 (1 回) ・喀痰吸引①			} 喀痰吸引の手順を覚える (1 h)		
2) 喀痰吸引②					
3) 喀痰吸引③					
4) 喀痰吸引④					
5) 経管栄養①			} 経管栄養の手順を覚える (1h)		
6) 経管栄養②					
7) 経管栄養③					
8) 経管栄養④					
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 1 5 医療的ケア第 2 版 中央法規					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (100%)		演習 5 回目にすべての評価項目が合格すること			
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 1 回の演習ごとに評価項目をチェックし、指導します。					
[備考] 演習 5 回目で合格できない場合は合格するまで行う。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

120441

授業のタイトル (科目名) 地域文化の創造		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 金弦敬子、堅田知佐	
授業の回数 16 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1~4	セメスター	卒業必修・資格必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 中山間地域における高齢者や地域住民の暮らしを理解する。 2. 持続可能な地域社会を維持することの意義を理解することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 1. 安来市広瀬町における地域活動を地域住民の方との様々な交流を体験し、授業目的に沿ったレポートをその都度提出する。 2. 安来市広瀬町比田地区の伝統芸能に参加する。 ※1 セメスター：1~6 講, 2 セメスター：7~8 講, 3 セメスター：10~13 講, 4 セメスター：14~16 講					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 地域に暮らす人たちが共に生活することについての豊かさとこれからの課題について考察することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 地域に暮らす人たちが共に生活することと地域活動			参考文献及び事前に配布する資料を読んでおくこと (30分)		
2) 自然資源保存活動への参加			テキスト②該当ページを見ておくこと (30分)		
3) 高齢者クラブ連合会の活動へ参加					
4) 田植え体験 (花田植え)			比田田植え唄を覚える (1時間) テキスト該当ページを見ておくこと		
5) かえるの会の活動 (介護予防の行事) へ参加					
6) 高齢者クラブ連合会の活動へ参加					
7) 高齢者クラブ連合会との交流会準備					
8) 高齢者クラブ連合会と交流会					
9) 自然資源保存活動への参加					
10) 高齢者クラブ連合会の活動へ参加					
11) 田植え体験					
12) かえるの会の活動 (介護予防の行事) へ参加					
13) 高齢者クラブ連合会の活動へ参加					
14) 高齢者クラブ連合会との交流会準備					
15) 高齢者クラブ連合会と交流会					
16) まとめ 「地域に暮らす人たちが共に生活することについての豊かさとこれからの課題」について発表					
[使用テキスト] ①大阪健康福祉短期大学安来キャンパス (2025) 「地域文化の創造ー地域交流事業の概要授業ファイル」, レジюме					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)	活動毎に提出するレポート内容及びまとめの発表内容を評価します。				
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				

	□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
[備考] 平常点評価として活動への取り組み状況を加味します。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

100511

授業のタイトル (科目名) 国家試験基礎演習 (2 セメスター)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 金弦敬子、堅田知佐	
授業の回数	5 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 介護福祉士国家試験に合格するために、問題の出題傾向と自身の解答傾向を把握する。 2. 国家試験合格のための学習方法を知り、それに沿って自主的に学習を進めることができる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 1. 出題傾向の説明を行う。 2. 各科目ごとの重要ポイントを説明する。 3. 模擬試験を行い、個別の正答率や解答傾向を提示する。 4. 模擬試験の解説を行う。 5. 合格に向けた学習方法を説明する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 出題傾向及び重要ポイントを把握した上で、自身の傾向に応じた学習を自主的に継続することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション (授業の進め方と学習方法について説明) 国家試験の概要 (科目, ポイント, 近年の傾向等) 説明			令和5年度国家試験問題を見ておくこと (3h)		
2) 午前問題模擬試験					
3) 午前問題模擬試験結果の個人への提示と解説					
4) 午後問題模擬試験					
5) 午後問題模擬試験結果の個人への提示と解説					
[使用テキスト] ①いとう総研資格取得支援センター編 (2024) 「見て覚える! 介護福祉士国試ナビ 2025」中央法規					
[参考文献] いとう総研編「社会保障制度指さしガイド 25 年度版」日総研 中央法規編集出版部「介護福祉士用語辞典」中央法規 社会福祉法人大阪ボランティア協会編 (2025) 「福祉小六法」中央法規					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)		模擬試験結果を基に評価する			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 問題の解説を授業内で行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220523

授業のタイトル (科目名) 国家試験基礎演習 (3 セメスター)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田知佐、金弦敬子	
授業の回数	10 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士国家試験合格のため、自身の傾向を把握した上で効率的に点数をあげていくことができる。 模擬試験にて合格圏内の点数を取る。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 1. 国家試験過去問題 (過去2回分) の実施と解説 2. それぞれの過去問題についての領域毎の解説 2. 個々の傾向に応じた補習等の実施					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 模擬試験結果が合格点に達することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 領域「人間と社会」傾向と対策			テキスト①領域「人間と社会」のページを読んでおくこと		
2) 領域「介護」傾向と対策			テキスト①領域「介護」のページを読んでおくこと		
3) 領域「こころとからだのしくみ」傾向と対策			テキスト①「こころとからだのしくみ」のページを読んでおくこと		
4) 領域「医療的ケア」「総合問題」傾向と対策			テキスト①領域「医療的ケア」のページを読んでおくこと		
5) 模擬試験1の実施 (1)					
6) 模擬試験1の実施 (2)					
7) 模擬試験解説 領域「人間と社会」・その他の領域の法制度に関する問題					
8) 模擬試験解説 領域「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」「総合問題」					
9) 模擬試験2の実施 (1)					
10) 模擬試験2の実施 (2)					
[使用テキスト] ①いとう総研資格取得支援センター編 (2024) 「見て覚える! 介護福祉士国試ナビ 2024」中央法規出版 ②介護福祉士国家試験受験対策研究会編 (2025) 「介護福祉士国家試験過去問解説集 2025」中央法規出版 ③介護福祉士国家試験受験対策研究会編 (2025) 「介護福祉士国家試験模擬問題集 2025」中央法規出版					
[参考文献] いとう総研編「社会保障制度指さしガイド24年度版」日総研 中央法規編集出版部「介護福祉士用語辞典」中央法規 社会福祉法人大阪ボランティア協会編 (2025) 「福祉小六法」中央法規					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)		模擬試験結果をもとに評価する			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 問題の解説を授業内で行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220533

授業のタイトル (科目名) 国家試験基礎演習 (4 セメスター)	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義	授業担当者 金弦敬子、堅田知佐
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士国家試験に合格する。		主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 3. 全国統一模擬試験の実施と解説 4. 国家試験過去問題及び2025年度予想問題の実施と解説 5. 自身の傾向を踏まえた学習ノートの作成		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 試験が合格点に達することができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
1-4) 模擬問題の実施		
5-7) 模擬問題解説ノートの作成		
8) 全国統一模擬試験 (第1回目)		
9) 全国統一模擬試験 (第1回目) 結果から自身の傾向を確認し正答率の低い科目を中心に解説ノート作成		
10) 全国統一模擬試験 (第1回目) 解説		
11) 全国統一模擬試験 (第2回目)		
12) 全国統一模擬試験 (第2回目) 結果から自身の傾向を確認し正答率の低い科目を中心に解説ノートを作成		
13) 全国統一模擬試験 (第2回目) 解説		
14) 令和7年度学力評価試験解説		
15) 令和7年度学力評価試験解説		
[使用テキスト] いとう総研資格取得支援センター編 (2023) 「見て覚える! 介護福祉士国試ナビ 2024」中央法規出版 介護福祉士国家試験受験対策研究会編 (2025) 「介護福祉士国家試験過去問解説集 2026」中央法規出版 介護福祉士国家試験受験対策研究会編 (2025) 「介護福祉士国家試験模擬問題集 2026」中央法規出版		
[参考文献] いとう総研編「社会保障制度指さしガイド 24年度版」日総研 中央法規編集出版部「介護福祉士用語辞典」中央法規 社会福祉法人大阪ボランティア協会編 (2025) 「福祉小六法」中央法規		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認 (100%)	模擬試験結果を基に評価する	
②実技・作品発表 (%)		
【定期試験】		
①筆記試験 (%)		
②レポート (%)		
③実技試験 (%)		
④面接試験 (%)		
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法] 問題の解説を授業内で行う。 問題の解説を授業内で行う。		
[備考]		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

220543

授業のタイトル (科目名) 福祉のための日本語 I (介護現場におけるコミュニケーション)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 尾崎 理恵	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1	セメスター	留学生必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 介護現場で、上司の指示が聞けるようになり、ご利用者に介護行為の説明も要望も聞き取ることができる。自分が行った介護行為や必要な情報を共有、報告と記録ができる。介護現場で相手に配慮したコミュニケーションも取ることができる。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] アセスメント表や記録などを読み理解し、上司などに報告するスキルを身につける。 介護現場で、ご利用者や職員とのコミュニケーションが円滑に図れる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ご利用者の訴えを聞くことができ、行動できる。 アセスメント表、記録や他職員が言っていることが理解でき実行することができる。 困った時は1人で行動せず、上司や同僚に相談・報告できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 自己紹介。オリエンテーション：介護現場でのコミュニケーションの必要性を理解する。介護現場でのコミュニケーションで大切だと思うことを書き、述べる。 介護現場でのコミュニケーションで大切なことを話しまとめる。 介護現場で困った時はどうするのか確認、演習。			教材検討		
2) 介護現場で困った時はどうするのかロールプレイ。 日本の高齢者施設で提供している食事形態、食事時間など書かれたアセスメント、記録を読んで理解する。ロールプレイ (指示、関わり、報告)			アセスメント表、記録例など		
3) 食事に関する語彙 (栄養のバランス、心臓食、ミキサー食など) 確認、食事を配膳、食事観察、声かけのやり取り演習。 入浴に関して介入する方法、タイミングなど書かれたアセスメント表などを読んで理解する。ロールプレイ (指示、関わり、報告)			アセスメント表、記録例など		
4) 入浴に関する語彙 (機械浴、一般浴、洗身・洗髪、清拭など) 確認、浴室へ誘導し入浴介助する時の声かけ演習。 口腔ケアに関して介入する方法、タイミングなど書かれたアセスメント表などを読んで理解する。ロールプレイ (指示、関わり、報告)			アセスメント表、記録例など		
5) 口腔ケアに関する語彙 (総義歯、部分義歯、義歯ケースなど) 確認。口腔ケアの声かけ演習。 起居移乗移動に関して介入する方法、タイミングなど書かれたアセスメント表などを読んで理解する。ロールプレイ (指示、関わり、報告)			アセスメント表、記録例など		
6) 起居移乗移動に関する語彙 (歩行器、立ち上がり、仰臥位、側臥位など) 確認。動く時の声かけ演習。 緊急時介入する方法 アセスメント表等を読んで理解する。ロールプレイ (指示、関わり、報告)			アセスメント表、記録例など		
7) 緊急時の語彙 (嘔吐、体熱感、顔面紅潮など) 確認。対応・連携演習。 急いでいる時の対応 (ご利用者への対応、職員への対応) 語彙の確認、対応方法。ロールプレイ。			資料		
8) アセスメント表、記録を読み重要なところを書き出し、話あった内容をまとめる。発表。 困った時の対応の再確認。振り返り。			アセスメント表、記録例など		
[使用テキスト] 「はじめて学ぶ介護の日本語 生活知識とコミュニケーション」					
[参考文献]					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (%)	
②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

531510

授業のタイトル (科目名) 福祉のための日本語Ⅱ (こころとからだに関する日本語)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 金弦 敬子	
授業の回数 16 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1	セメスター	留学生必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 福祉のために必要な「こころとからだ」に関する日本語について、「読む」、「書く」、意味を「説明する」ことができるようになる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 教科書を用いてこころとからだに関する専門用語を理解する。 人体模型や教科書を用いるだけでなく、実際に自分のからだを用いて学習を進める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 対象者の「こころとからだ」について、福祉のための日本語を「読み」、「書き」、「説明する」ことができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション (基本用語の勉強の仕方) からだ全体図、頭部、手と足の部位に関する専門用語			教科書「からだ」頁を読んでもくる (30 時間)		
2) 口から肛門までの内臓の名称、部位、役割に関する専門用語			第 1 講義の復習 (30 時間)		
3) 脳の構造と役割に関する専門用語 前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉			第 2 講義の復習 (30 時間)		
4) からだを支えるために必要な基本的骨格系に関する専門用語			第 3 講義の復習 (30 時間)		
5) からだの動きに関わる基本的な筋系に関する専門用語			第 4 講義の復習 (30 時間)		
6) 循環器系 肺循環と体循環の流れと機能に関する専門用語			第 5 講義の復習 (30 時間)		
7) 呼吸・消化器系 鼻腔から肺、口腔から肛門までの経路に関する専門用語			第 6 講義の復習 (30 時間)		
8) 腎・泌尿器・生殖器系に関する専門用語			第 7 講義の復習 (30 時間)		
9) 自律神経系に関する専門用語			第 8 講義の復習 (30 時間)		
10) 知能 結晶性知能と流動性知能に関する専門用語			第 9 講義の復習 (30 時間)		
11) 欲求 基本的欲求と社会的欲求に関する専門用語			第 10 講義の復習 (30 時間)		
12) 人間の基本的欲求 マズローの欲求階層に関する専門用語			第 11 講義の復習 (30 時間)		
13) 記憶の過程に関する専門用語			第 12 講義の復習 (30 時間)		
14) 記憶の分類 感覚記憶、短期記憶、長期記憶に関する専門用語			第 13 講義の復習 (30 時間)		
15) 障害受容に関する専門用語			第 14 講義の復習 (30 時間)		
16) まとめ こころとからだに関する日本語			第 15 講義の復習 (30 時間)		
[使用テキスト] 一般社団法人 海外介護士育成協議会「外国人のためのやさしく学べる介護のことば」改訂版 中央法規 2024 最新介護福祉士養成講座 第 11 巻こころとからだのしくみ第 2 版 (中央法規)					
[参考文献] 一般社団法人海外介護士育成協議会「外国人のためのやさしく学べる介護のことば 改訂版」中央法規 2022					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (50%)		講義ノートに学習内容を記録し提出をする。最終講義では、講義 1) ~15) で学んだ専門用語を用い、こころとからだに関する記録 (A4 用紙 1 枚) を作成する。			
②実技・作品発表 (50%)		講義ノートに記録した学習内容を説明する。これを毎週作成し、講義のはじめに発表し、			

	提出をする。
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

531511

授業のタイトル (科目名) 福祉のための日本語Ⅲ (人間と社会に関する日本語)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田知佐	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		選択			
[授業の目的・ねらい] 1. 介護福祉士養成カリキュラム領域「人間と社会」に頻出する用語、専門用語を理解し使用できる。 2. 介護福祉士国家試験領域「人間と社会」に出題される問題文を理解できる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 1. テキスト①の内容ごとの日本語の説明を行った後、各自で言葉の意味を調べる、読む、書く、話す練習をする 2. テキスト①の授業で行ったテキスト②の該当箇所を読む。 3. 各コマ毎に上記1～2を繰り返して行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護福祉士国家試験 領域「人間と社会」に出題される問題文を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション			テキスト i～xiii を読む		
2) 介護福祉士に関する法律			テキスト第 11 課を読む		
3) 介護保険制度①制度の概要			テキスト第 12 課を読む		
4) 介護保険制度②制度のしくみとサービス			テキスト第 13 課を読む		
5) 障がい者福祉①障がい者の法制度			テキスト第 14 課を読む		
6) 障がい者福祉②障害者総合支援法のサービス			テキスト第 15 課を読む		
7) 高齢者や障がい者への虐待			テキスト第 10 課を読む		
8) 筆記試験と解説					
[使用テキスト] ①奥村匡子他 (2021「介護の専門日本語 介護福祉士国家試験合格をめざす人のために」凡人社					
[参考文献] ①介護福祉士養成講座編集委員会編 (2022) 「最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解第 2 版」中央法規					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)		確認テスト及び筆記試験の結果を評価する			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 平常点評価は課題に対する取り組み状況の評価する					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

531512

授業のタイトル (科目名) 福祉のための日本語Ⅳ (日本の文化に関する日本語)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義・演習・実技		授業担当者 山中 由美子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 介護施設で利用者さんとコミュニケーションをとる際に、知っているのと役立つ日本の伝統文化と大衆文化を習得する					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 日本の歌(歌謡曲と童謡)、年間行事、書道、折り紙、けん玉、お手玉、カルタ、武士、着物、すもう、島根の方言を学ぶ					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 日本文化(歌、年間行事、書道、折り紙 など)の知識を使って、介護施設の利用者とコミュニケーションがとれる。島根の方言を聞いて理解できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 歌を歌う、年間行事と習慣を学ぶ			日本の年間行事を調べる		
2) 書道の実技			書道について調べる		
3) 歌を歌う、方言を学ぶ、着物を学ぶ、お手玉の実践			着物について調べる		
4) 歌を歌う、折り紙を折る、武士について学ぶ			武士について調べる		
5) 歌を歌う、にほん行事のカルタで遊ぶ、すもうを学ぶ			すもうについて調べる		
6) 歌を歌う、俳句を作る、けん玉で遊ぶ			俳句について調べる		
7) 歌を歌う、神道と仏教を学ぶ			神道と仏教について調べる		
8) 歌を歌う、方言をペアを組んで会話練習、食事(一汁三菜)を学ぶ			3回目の授業で学んだ方言の復習		
[使用テキスト] 教員が年間行事、方言、神道と仏教、食事の資料を作って配る。					
[参考文献] かるたは、にほんかるた という幼児向けのかるたを使用します。山中が持っています。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認(50%)	ペアを組んで、方言を取り入れた会話をしてもらう				
② 実技・作品発表(50%)	書道、折り紙、かるた、俳句、お手玉、けん玉				
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法]					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

531513

授業のタイトル (科目名) 福祉のための日本語V (文章表現)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義、演習		授業担当者 山中 由美子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ・多くの介護記録を読んで専門用語と表現になれる ・基本的な表現を使って自分なりに介護記録が書けるようになる					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ・介護記録を読んで質問に答えてもらう ・よく使われる表現を使って、介護記録を書く練習をする					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・介護記録を読んで理解できる ・介護記録を書ける					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション P11～14 よく使われる専門用語 P22～23 よく使う表現			P11～14 用語を読む, P22～23 ウォーミングアップ を読む		
2) P24～29 介護記録を読んで質問に答える			P24～29の介護記録を読む		
3) P30～33 介護記録を読んで質問に答える			P30～33の介護記録を読む		
4) P34～41 介護記録を読んで質問に答える			P34～41の介護記録を読む		
5) P44, 45 アセスメントシートの用語クイズ P50, 51 風呂と食事、 P54～57 書き換え練習			P44, 45 [3]～[6]のクイズに答える P54～57を読む		
6) P58～65 会話を記録する			P58～65を読んで意味を理解する		
7) P66～67 状況を記録			P66～67の絵を見て状況を記録する		
8) 筆記試験と解説					
[使用テキスト] 斉木美紀、田中奈緒 (著) 外国人のための介護記録の読み書き練習帳					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (100%)		筆記試験の結果を評価する			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

531514